

ある。蓋し吾人が他人の精神状態を察知するものは、自分の精神状態を内省して得た知識を基礎として、之から類推するの外ないからである。

併し内省法には困難が伴ふ。即ち一つの心で主客兩方面にならなければならぬので、相當發達した後でなくては行ひ難い。又内省しつゝある間に意識過程は變化するから、眞の觀察は困難であるこれが爲め内省法の不可能を稱へる者もあるのである。けれども變化しつゝある意識過程も、直接記憶によつて内省することが出来る。即ち内省法は可能であるが、之れのみ依る時は研究の範圍甚だ狭く、往々自分だけ特有の心的現象を以て一般の事實であると速斷することがある。

### (2) 觀察法

他人の精神活動の外部に表れたものを觀察して、其の精神状態を察知する方法である。此の方法は適用範圍が頗る廣く、現在の人ばかりでなく、傳記とか著作とか作品と云ふものを通じて、古人の精神状態を究知することか出来る。又風俗習慣等によつて社會一般の精神を知ることが出来、更に進んで動物・精神病患者・犯罪人等につきても考察することが出来る。殊に兒童は無邪氣で隠蔽することが少いから、比較的容易に觀察することが出来る。

### (3) 實驗法

一定の目的を定め之に對して人爲的に、或る状態を生起・變化・繼續させて研究する方法である。此の方法は前記内省、觀察の二方法に比較すれば、同一事情を任意に起させたり、或は反復・變化させて觀察することが出来るので、確實な結果を得ることが出来る。且つ精神現象を分量的に決定し得る所に長所がある。實驗心理學は専ら此の方法に依つてゐる。

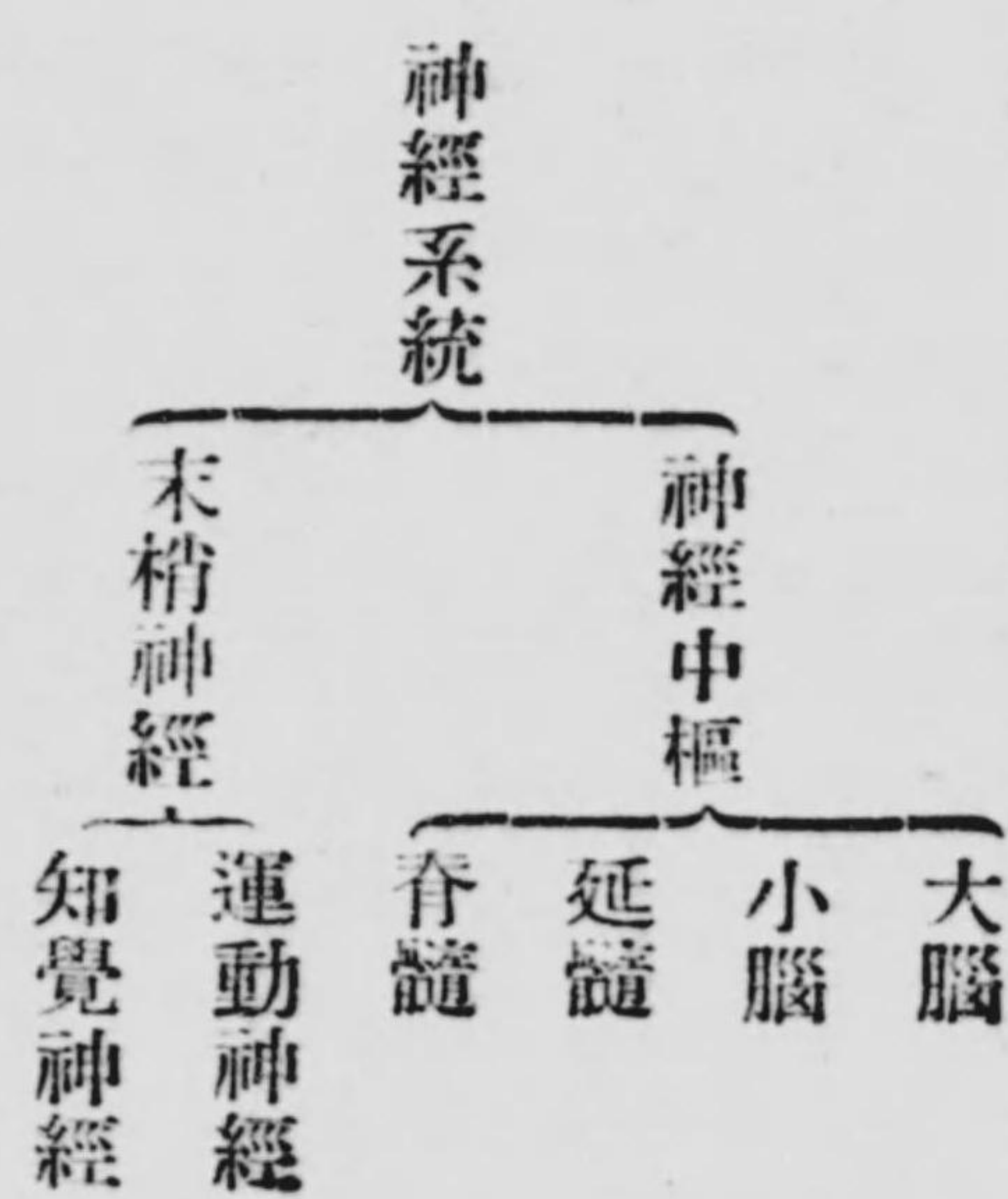
以上の三方法に依つて得た材料を、更に比較し綜合して、一般の法則を發見することが第二段の研究法である。これは歸納的方法に屬する。次に第三段としては、演繹的に種々の心的現象に當てはめて説明し、凡てを説明し得る様になつて始めて科學的體系が成立するのである。

## 第二章 心的現象の生理的基礎

### 1、神経系統と心的現象との關係を述べよ。

#### 一、神経系統とは何ぞや

神経系統とは内部の刺戟を外部へ、外部の刺戟を内部に傳へ、以て順應を完成せんとする器管の系統を云ふのである。吾人の神経系統は「神経中樞」と「末梢神経」との二部からなつてゐる。これを表示すれば次の如くである。



二、神経系統と心的現象との關係

西諺に「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と云ふ如く、心身の關係は密接なものである。又その如く神経系統と心的現象との關係も密接であることは疑ふ餘地がない。併し其の關係が並行的であるか因果的であるかは、未だ明確でないけれども、次の様な關係があることは知り得るのである

- (1) 神経系統は心意作用の生理的方面の基礎をなしてゐる。
- (2) 精神の發達してゐるものは、神経系統も發達してゐる。神経系統の複雑なものは精神作用も複雑である。
- (3) 神経系統に障礙が起ると、精神作用にも異常を呈する。若し其の障礙が部分的である時は、

異常も亦部分的である。

- (4) 外界の事を知るには知覚神経により、内部の意志を表出するには運動神経の力に俟たねばならぬ。

2、幼兒期兒童期少年期に於ける精神の發達を述べよ。(岐阜)

一、幼兒期に於ける精神の發達

生後から乳齒が略ぼ完備するまでの凡そ二個年を幼兒期と云ふ。此の時期にある幼兒の行動は、初めは反射運動・本能運動であるけれども、次第に有意動作に進んで来る。而して二歳前後になれば模倣本能が著しく發現して来る。又言語の收得が盛となり、感情は常に變化する。注意は容易に集めることが出来るが、持續せしむることが困難である。行爲は多く利己的衝動的である。

幼兒の感情や意志が不定であることは、一面に固定せる習慣のない事を示すものであつて、陶冶可能性の大なることを證するのである。

二、兒童期に於ける精神の發達

兒童期とは幼兒期の終りから大凡七歳に至る間である。遊戯・模倣等順應的本能が著しく現れ、日常生活の習慣が略ぼ完成する時期である。

五歳頃となれば、凡そ大人の持つ精神作用は具備してゐるが、其の機能は甚だ不完全であつて、未だ抑制する作用が発達してゐない。又時間の觀念數觀念は不確實であり、類化作用も表面の類似を標準として行はれ、想像作用は盛ではあるが統制を次ぎ、感情や意志は暗示性に富み、注意は無意的であつて動搖し易い。好奇心が発達し盛に質問を發するので質問期とも云はれる。

### 三、少年期

少年期は凡そ七歳から十五六歳に至る間を云ふのである。前時代に得た習慣を基礎として、諸種の知識を收得する時代である。

讀書力・記憶力・思考力・想像力等發達し、筋肉活動も微細になり、知識技能の收得的傾向が顯著となつて來る。感情や意志の働きも、初めは衝動的利己的で且つ暗示せられ易いが、漸次自制力を増して來、又道德的感情も徐々に發現するに至る。

## 第三章 意識及注意

### 1、意識、半意識、社會意識(山形)

#### 一、意識

意識とは如何なるものであるかを定義的に云ふことは困難である。蓋し意識は吾人の直接に經驗する事實であつて、反省して體得するより外に方法がないからであるによる。併し今之を強いて言つて見れば廣義では心の辨別覺醒状態であると、狹義では精神の活動を自覺しつゝある状態を云ふのである。

#### 二、半意識

意識の反對の状態を無意識と云ふ。即ち熟睡してゐる間又は氣絶した時の如く、全く覺えのない状態である。意識から無意識に移る間には無数の程度があるわけである。此の意識から無意識に、或は無意識から意識に至る過度の状態を半意識と云ふのである。

#### 三、社會意識

社會には社會特有の思想・感情・意志があつて、それ等の知的要素・情的要素・意的要素は、有力な觀念或は慣習に率ひられて、活動してゐるものである。斯くの如く社會生活に根據を有する所の、而して組織的な結合・組織的な活動を持つ所の、意識内容を指して社會意識と云ふのである。

#### (參考) 意識の特性

意識の内容は極めて複雑であるけれども、然かも互に連絡を失はないで、よく一つの意味ある統

一をなして、瞬間の意識を形成してゐる。これを意識の統一性といひ、その中心になつてゐるものは自己意識である。又意識は絶えず變りながら次から次へと進みに進んで、所謂意識の流をなし、律的の變化を見せてゐる。これを意識の變化性といふ。かく意識は、寸時も止まることなく變化しながらも、尙常に一つの意味ある統一を作り、その前後の意識には密接な關係があつて、今の意識は次の意識へと發展し、次の意識は過去の經驗をその中に含んでゐる。これを意識の連続性と云ふ以上の三性質は、精神現象の特質で、自然現象と異なる所である。そして、或瞬間に於ける意識内容の全範圍を稱してこれを識野といふ。(乙竹岩造氏新心理學)

## 2、注意の客觀的條件を例を擧げて説明せよ。(長野)

### 一、注意の意義

心的現象は常に一局部が特に明瞭であつて、他は自ら明瞭を欠くものである。斯くの如く意識の一部を明瞭にする心的作用を注意と云ふのである。換言すれば或る對象に心的勢力を集中させる活動である。即ち意識を狭き範圍に局限する心的作用である。注意を比喩的に解して意識の焦點とも云ふ。

### 二、注意の種類

(1) 無意注意 対象に興味があるため外部の壓迫によらず自然に注意を起すもので、努力を加へる必要もなく、興味の伴ふのが特質である。無意注意の一種に反意注意と云ふのがあつた。これは刺激が強大であるか、變化あるが爲めに、注意しない様に力めてゐても、尙且つ注意せざるを得ないものである。

(2) 有意注意 一定の目的の下に自ら進んで注意するもので、義務の感によつて起るものである。これには努力の感が伴ふのを特徴とする。

### 三、注意の客觀的條件

注意の客觀的條件とは、注意を惹起するについての外部的條件である。

(1) 刺激が強大であること。例へば爆音・電光等の如きである。併し弱小なものでも時としては對比の關係上注意を起し易いこともある。例へば大文字の中の小文字の如くである。

(2) 刺激が急激に来るか、又はそれが運動すること。例へば目ざまし時計の急に鳴る時、或は幻燈より活動寫眞の方が注意を惹き易いが如くである。

(3) 刺激が新奇であるか、又は變化のあること。例へば今だ嘗て見たことのないもの、或は同じ排例するにも變化あらしめて置く方が注意を惹き易いが如くである。

(參考) 注意の主觀的條件

- 主觀的條件
- 1、現在の意識内容特にその目的・態度と關係のあること。
  - 2、感情に關係の深いこと。
  - 3、教育・練習によつて興味を惹くこと。
  - 4、豫期しない事物であること。
  - 5、遺傳的要求に合するもの。
  - 6、有意的努力。

## 第二篇 知的現象

### 第一章 感覺

#### 1、感覺の意義及び其の分類に就きて記せ。

##### 一、感覺の意義

感覺とは感官が身體の内外に於ける刺戟を受けた時に生ずる、最も簡単な意識状態を云ふ。感官

とは外界の状態及び變化を知る末梢的器官を云ふ。例へば皮膚・目・耳・鼻・舌等である。感官が或る刺戟を受ける時は、其の表面に分布してゐる知覺神經は直ちに興奮して神經中樞に傳達する。此の時一つの簡単な精神現象が起る。此の現象を感覺と云ふのである。故に感覺の發生には次の三つの條件を必要とする。

- (1) 光・音・熱等の如く刺戟の存すること。
- (2) 感覺機關に存する末梢神經が興奮し、之を神經中樞に傳達すること。
- (3) 大脳皮質に於ける感覺中樞が興奮すること。

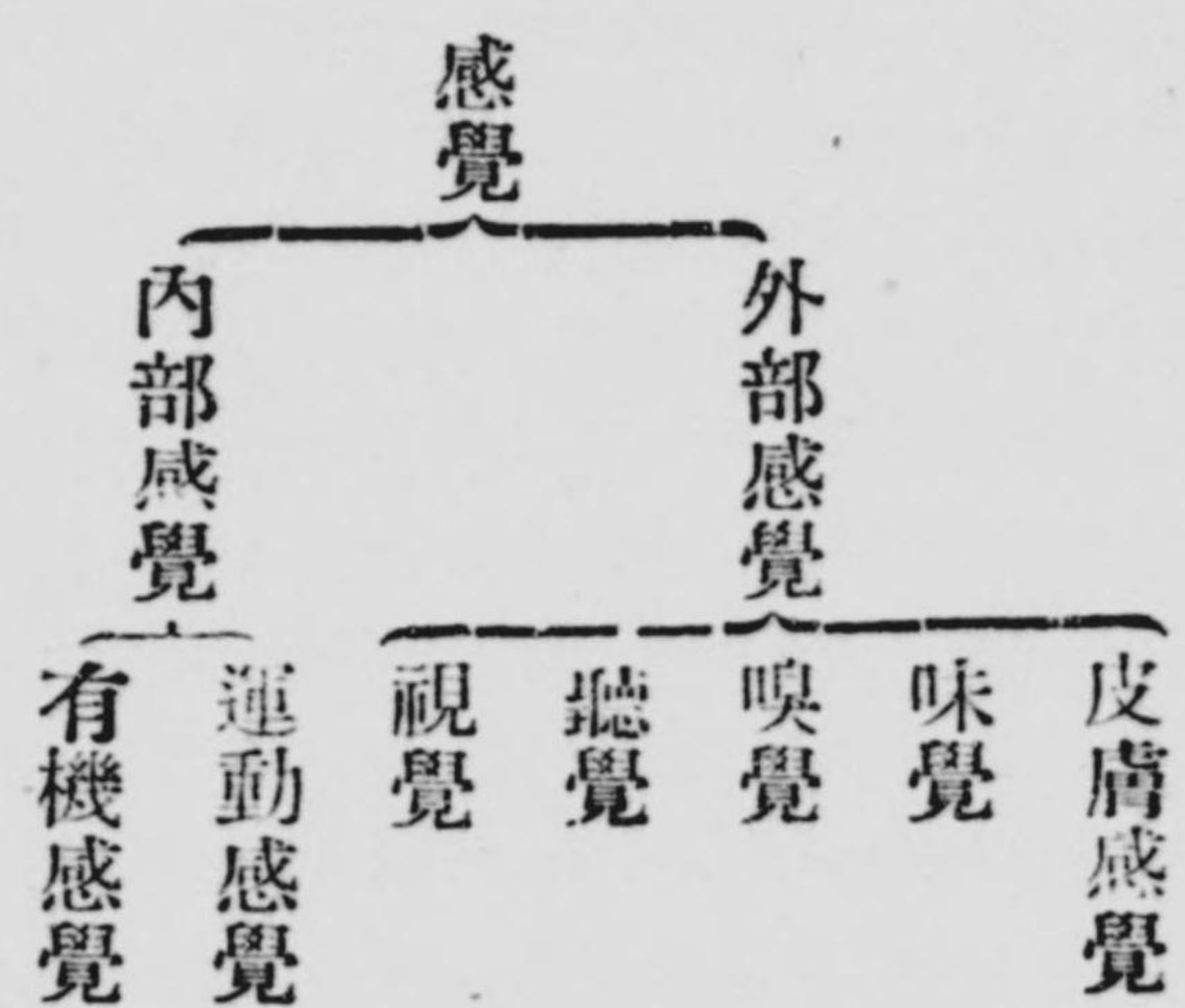
實際に於ては、知覺として經驗するもので、單なる感覺と云ふものはないが、研究の便宜上知覺から抽象して認めるものである。

##### 二、感覺の分類

感覺の分類につきては學者の説く所が一定してゐない。古くからあるものは所謂五官の名稱である。五官と云ふのは視聽嗅味觸の五つの感覺である。併し人類の感覺は決して五つに止まるものはない。其の他にも猶ほ種々の感覺がある。

感覺を外部感覺と内部感覺とに分つものがある。外部感覺と云ふのは、外部の刺戟が感覺器官を

通じて神経を興奮させる所の感覺であり、内部感覺とは、身體内に分布する末梢神経が内部の刺戟で興奮する場合の感覺である。換言すれば外部感覺は物理的刺戟に依り、内部感覺は生理的刺戟に依つて起る感覺である。尙兩者に數種の分類がある。之を表示すれば次の通りである。

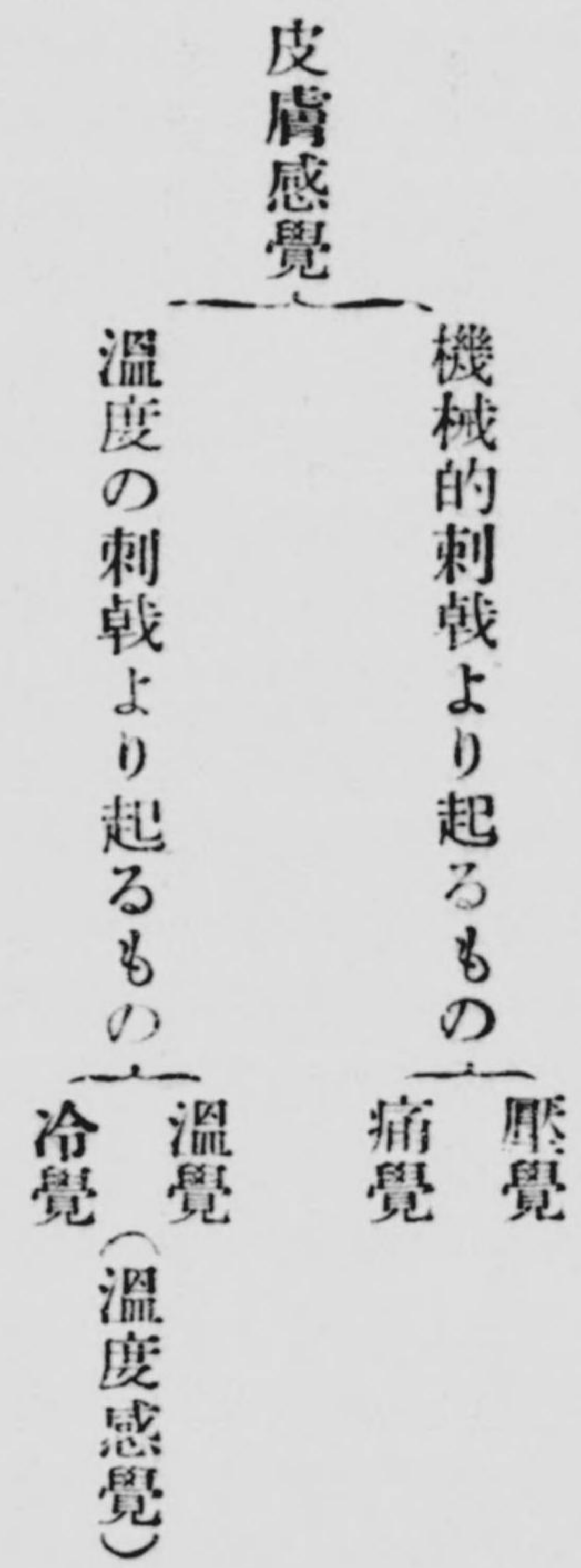


2、フォン・フライ氏の研究による皮膚覺の平方種に於ける各點の數を問ふ。(和歌山)

一、皮膚感覺の意義。

皮膚感覺は皮膚を刺戟する時に生ずる感覺であつて、多くの感覺の中で最も早く發達したものである。原始的な動物では皮膚感覺ばかりしか有たないものもあるが、進化するに従つて、特殊の刺

戟には特殊の器官を以て感覺する様になり、それが爲めに皮膚感覺にも種類が出来たのである。次の如く區分する。



## 二、フォン・フライ氏の研究

フォン・フライは痛覺の點を發見し、從來漠然として居つた皮膚覺は、壓點・痛點・溫點・冷點の四種類の點によつて感ずることが明らかとなつた。壓點は身體の常に露出してゐる部分に多く、溫點冷點は反對に衣服に被はれて居る部分に多く存し、痛點は略ぼ全身一様に多數存在する。何れも皆小さい點であるから、特殊の方法でなくては檢することが出来ぬ。各其の數に於ても、平均上一番多くあるのは痛點であつて、一平方糎の間に百乃至二百、壓點は約二十五、冷點は約十三最も少ないのは溫點で約三個である。併し此の數字は人によつて多少異なることを自覺せねばならぬ。

## 3、味覺・嗅覺・聽覺・視覺につきて簡單に解説せよ。



一、味 覺

味覺は種々の溶液が舌面及び軟口蓋等に分布してゐる味細胞を刺戟することによつて起る感覺である。通常甘・酸・苦・鹹の四種とする。舌面は部位によつて感受性が違ふ。即ち舌尖は甘味・舌根は苦味・兩側は酸味を感じ、又鹹味は全面一様に感ずるのである。

二、嗅 覺

嗅覺は種々の互斯體が鼻腔上部の粘膜炎中に分布してゐる嗅細胞を刺戟することによつて起る感覺である。此の感覺は疲労し易く、同一の刺戟を永く與へる時は竟に何等の感覺をも起さなくなる。

三、聽 覺

聽覺は種々の音響が内耳に分布してゐる聽神經を刺戟することによつて起る感覺である。今その順序を述べて見れば、先づ音響によつて起る空氣の振動が耳鼓に入り、外聽道を通つて鼓膜を振動させ、次に中耳内の小骨及び内耳の淋巴液に傳はり、蝸牛殻内にある聽神經を刺戟し、此の神經は大腦中の聽覺中樞に傳へて初めて音としての感覺を生起するものである。

音の種類には規則正しい振動から起る樂音と、不規則な振動から起る噪音とがある。又音の性質には高低・強弱・音色の三つを擧げることが出来る。高低は音波の長短、強弱は振幅の大小、音色は

主音に伴ふ副音の數と強弱の差によつて起る。

四、視 覺

視覺は光線が視神經を刺戟することによつて起る感覺である。其の順序を云へば、光線が眼の水晶体、硝子體等を通して網膜に至り、茲にある所の視神經を刺戟して興奮せしめ、之が大腦の視覺中樞に傳つて起る感覺である。

視覺は光覺(無色覺)と色覺との二つに分ける。光覺は光の強弱によつて起る感覺であり、プリズムによつて太陽の光線を分けると、赤・橙・黄・綠・青・藍・堇の七色が得られる。之等を識別し得る感覺を色覺と云ふ。色覺を全く欠くものを全色盲と云ひ、一部分を欠くものを部分色盲と云ふ。

4、運動感覺を説明し併せて此を基礎とする教育說の大要を記せ。(長崎)

一、運動感覺の意義

身體諸部を運動することによつて生ずる感覺を運動感覺と云ふ。

二、運動感覺の性質

運動感覺は、筋肉の運動による筋覺、關節の運動による關節覺、臍の運動による臍覺等の複合によつて現れるのが通例で、時には内部觸覺とも云ふ事がある。

筋 覺……筋肉の運動による感覺  
運動感覺の要素 腕 覺……腕の運動による感覺

關節覺……關節の運動による感覺

肘又は指の關節を動かす時、關節部に一種の感覺を生ずるのは關節覺である。重い物を支へる時に筋肉に緊張を感じるのは、筋肉から生ずる筋覺と腕から生ずる腕覺との合したものである。次に運動感覺の機能を表示すれば左の如くである。

運動を報ずること。

位置を知ること。

運動感覺の機能 努力の感を知ること。

抵抗の感を知ること。

重量を知ること。

### 三、運動感覺を基礎とせる教育說

書寫・談話・歩行は勿論、體操・遊戯・圖畫・手工・裁縫・唱歌等に至るまで、一として運動感覺を基礎として成立たないものはない。これから考へて見ても、運動感覺が教育上如何に大切であるかと

云ふことが知られる。殊に技能の學習は直接の關係があり、然らざるものでも學習した所を運動に表はさなければ、十分な學習と云ひ得ない場合も少くない。故に輒近に至つては運動感覺を基礎とした教育説が立てられる様になつた。其の主なるものを擧げて見れば、勤勞作業主義の教育説、藝術教育等の如く、或は其他發表主義・活動主義を主とする教育説である。

### 5、有機感覺を説明せよ。(大阪)

#### 一、有機感覺の意義

有機感覺とは身體内部の作用即ち消化・呼吸・血行等が、消化器・呼吸器・循環器等に分布する感覺神經を刺戟することによつて起る感覺を云ふのである。特別な感官を有たないので一般感覺とも云ひ、又身體内部に起るので體感とも云はれてゐる。

#### 二、有機感覺の種類

有機感覺は刺戟も総合的であり、感覺も亦漠然としてゐるのみならず、研究も極めて幼稚なので、其の種類も正確に列挙することが出来ない。今最も著しいものを擧げて見よう。

- (1) 消化機管の感覺
- 空腹の感覺
  - 満腹の感覺
  - 渴の感覺

(2) 呼吸器管の感覺  
呼吸容易の感覺  
呼吸困難の感覺

(3) 血液循環器官の感覺

(4) 排泄器官の感覺  
排泄前の感覺  
排泄に伴ふ感覺  
排泄後の感覺

涙の分泌に伴ふ感覺

(5) 全身に屬する感覺……疲勞の如く局所を確定し得ざるもの。

(6) 平衡感覺……平衡感覺は身體の平衡を司る感覺であつて、三半規管及び聽覺器官等を其の器官とする。普通意識せられることなく、結果として生じた運動によつて間接に知ることが出来るのみである。

## 第二章 知覺

1、知覺の意義及種類に就いて述べよ。(大阪)

### 一、知覺の意義

知覺とは感覺を介して、一度受容れたる印象を其の原因たる外物に歸着せしめ、其の事物の何たるかを意識する作用である。例へば或る音聲が耳に入るときは、其の音色によつて直にピアノであるか尺八であるかを知り、又一尾の魚がある時、其の色や形等によつて、直ちに鯛であることを認めるが如きである。

### 二、知覺と感覺との異同

(1) 感覺は最も簡単な精神要素であつて、單に事物の性質に對する意識であるが、知覺は色々の性質を有つてゐる事物を統一的に意識するもので、多くの感覺的要素の結合した渾然體である。  
(2) 知覺は單に感覺の集合ではなく、統一的に外物の意味を知る作用である。成人には單獨なる感覺は事實上存在しない。只抽象して知り得るに過ぎぬ。

### 三、知覺の性質

(1) 統一性 個々の感覺的要素を統一して、單一の事物として認知する性質。  
(2) 類化性 過去の經驗によつて感覺的事實を解釋する性質。

### 四、知覺の種類

知覺の對象たる外物及び現象は、一定の空間を占め一定の時間内に生滅するものであるから、知覺は通常二つに分けて、空間知覺・時間知覺とする。空間知覺とは物體の方向・位置・形状・大いさ等に關する知覺であり、時間知覺とは、吾人が周圍に生起する出來事に對して、過去・現在・未來・遲速等すべて時間關係を理解することである。而して空間知覺には、其の感覺機關の相違によつて、觸空間・視空間・聽空間の別がある。



【類題】 知覺作用を説明せよ。(埼玉)

2、左の語の意義を記せ。「統覺」(東京・埼玉)

統覺とは過去の經驗によつて、新に得た印象に意義を與へ、之を自己的に組織統一する作用である。例へば茲に一個の果物があるとすると、其の色彩等によつて、舊觀念を喚起して之は林檎であるとの意味を與へるが如きである。外來の新印象を明らかにするのは注意作用であり、意味をつけ統

一するのは過去経験の綜合體驗である。

同一の印象に對しても、過去経験の相違によつて、意味のつけ方が著しく違つて來ることがある例へば一個の石を見たとき、無用の廢物とする者もあり、鑛物上重大な意味のあるものとする者もあるが如きである。

### 3、錯 覺。(鹿兒島)

外來の刺戟を誤つて知覺することを錯覺と云ふのである。例へば夜間に白衣の干してあるのを見て幽霊であると思ひ、或は繩を蛇と誤るが如きである。

錯覺は吾人の精神状態に基づいて起ることもあり、或は覺官の生理的構造の關係上起る場合もある。前者は中樞的錯覺であつて人によつて必ずしも一樣でないが、後者は末梢的錯覺であつて、正常な覺官を有する限り何人も避けることの出來ないものである。故に之を正常錯覺とも云ふ。

#### (參考) 幻 覺

外界には刺激なく内界よりの刺激を誤つて、之に相當する物體の存在を客觀的に認めるものであつて、精神病者に起ることが多い。其の強いものになると、眞の知覺と殆んど同程度にまで、音のないのに聴き、物のないのに見るのである。

幻覺は全く刺激なくして起るものとして錯覺と區別する人もあるが、幻覺と雖も全く刺激なくして起るものではない。外觀之れなきが如く見えても必ず何等かの刺激がある。多くは知覺の類化性が異常に亢進してゐるが爲めに、僅かの刺激にも複雑な知覺的反應が起るので、物なきに見、音なきに聴くと云ふ様な結果に思はれるのである。

### 第三章 觀念

#### 1、表象の型式につきて知る所を述べよ。(和歌山)

##### 一、表象(觀念)の意義

眼前に刺激があり、之る受けて意識するのは知覺である。然るに眼前の刺激物がなくなつても、尙其の物を思ひ浮べることが出来るのである。其の印象を表象又は觀念と云ふ。即ち刺戟の現存しない時に起る事物の意識である。

##### 二、表象型式の意義

一つの表象は多くの感覺的要素から成つてゐる。其の感覺的要素の中特に主要な地位を占めるものの如何によつて、自ら表象の傾向が異なつて来る。此の傾向を表象型式又は觀念典型と云ふ。此

の型式の研究はガルトン始めて唱へ、以來學者の研究する所となり、現今では教育上重大な地位を占めてゐるものと認められてゐる。

##### 三、表象型式の生因

型式は各個人相違してゐる。其の型式の相違は何に原因して起つたか、此の考察が生因の研究である。

(1) 感覺器官の相違 視覺・聽覺・觸覺・運動感覺等の感官は、各個人によつて多少の差違がある。此の相違に因づいて型式も起つて来る。

(2) 感覺中樞に於ける天賦的性向 中樞にも自ら天賦的の差違がある。これに原因して型式の相違も起る。

(3) 練習の相違 天賦的差違の外に、練習によつて習慣性が出来、其の感官の習慣性が型式の相違を起す因となる。

##### 四、表象型式の種類

(1) 視覺型式 視覺から来る印象を最も明瞭に把住することが出来るもので、主として形状・色彩等によつて事物を想起する。機械の發明家・畫家等には此の型式の人が多い。

(2) 聽覺型式 聽覺による印象に秀でたもので、常に音律によつて事物を想起せんとするものである。音楽家・演舌家に多い。

(3) 運動型式 運動感覺によることが最も多い人である。彫刻家・盲人等は概ね此の型式の人である。

(4) 混合型式 以上の三型式の何れにも屬せないものである。

人は一感官にのみ支配せられることはないから、嚴密に云へば皆混合型式であるが、比較的多く現はれる型式によつて區別するまでのことである。

## 2、觀念聯合の意義及び觀念聯合律について記せ。(奈良)

### 一、觀念の聯合

觀念は一定の方法で把持せられた意識内容であるから、意識面を去つた觀念と雖も、其儘消え失せるものでない。機に觸れては意識面に再現するものである。此の再現には現在意識を占領する觀念と何等かの關係を有することが必要條件で、無關係に再現するものではない。例へばコップを見れば水を想起し、黒と云へば白を意識するが如きである。斯の如く或る觀念に伴つて他の觀念が想起されることを觀念の聯合又は聯想と云ふ。



觀念の聯合と云つても、觀念そのものが聯合するのではなく、それを構成してゐる要素間の聯合である。即ち神經原間の聯合である。之を神經生理的に云へば、聯合に關係する觀念に伴ふ神經活動は、嘗て同時又は接近して起つたことがあるものであつて、其の間に傳達路が構成されてゐる。若し反復する時は傳達路は一層固定し聯合も強固となるのである。

## 二、觀念聯合律

觀念聯合が成立するには自ら一定の法則がある。根本原則とも云ふべきことは「同時に意識中にあつて活動した觀念は互に聯合する傾向がある」と云ふことである。諸法則も此の原理から出たものと見ることが出来る。アリストートルは接近律・繼續律・類似律・反對律の四法則を認めた。併し現今一般には接近律・類似律・反對律の三種が認められてゐるから此に従つて記す。

(1) 接近律 二個の神經原が同時に又は接近して活動すれば、兩者の間に聯絡が出来て、一方が興奮すれば他方にも波及するものである。例へば舊師に會ひて學生時代の事を想起するが如きである。

(2) 類似律 類似の性質を有するものは、兩觀念中に共通の要素があるから、此の要素が聯合し又要素と他の部分とが聯合することになる。例へば蛇を見て鰻を想ひ、夏の氷を見て冬の雪を想ひ

起すの類である。

(3) 反対律 性質の相反するものも聯合する。例へば白と黒・大と小・善と惡等の如きである。併し反対律は表面反対の如きも、實は類似の性質あるがためか、又は度々接近して經驗せられたかによつて聯合が生ずるものであるから、前二者の中に入れる學者もある。

【類題】 觀念聯合の意義及法則を説明せよ。(京都)

觀念聯合に就いて説明せよ。(大阪)

(参考) 觀念聯合を強固ならしむる條件

(1) 客觀的條件

客觀的條件は神經原間の連絡の強さを決定する條件である。

1、反復 聯合は反復するに従つて其の強固の度を増して來る。

2、明瞭 印象の明瞭なものは不明瞭なものに比して聯合し易い。

3、始端 始めに經驗した事項は、其の後の經驗に比して聯合が容易である。

4、新近 同一の經驗でも新しく經驗したものは、時日を経たものより聯合が強い。

(2) 主觀的條件

主觀的條件は再現當時の心情の準備状態に依つて聯合を決定するものである。即ち再現當時の注意の方向・感情の状態・目的等の精神態度、又は教育・義務の感・遺傳等は再現される觀念を決定するに與つて力がある。

3、記憶の意義を述べよ。(福岡)

一、記憶の意義

記憶とは再現した觀念を、過去の經驗に歸する作用である。多少精密を欠くとも殆んど原狀のままに再び思ひ起すことを云ふのである。

二、記憶の四要素

(1) 學習 學習とは經驗を收得する作用である。記憶の第一條件としては、先づ過去に收得した印象がなくてはならぬ。此の印象を受け容れる作用が學習である。

(2) 把住 把住とは學習によつて得た印象を持続することである。

(3) 再現 再現(憶起)とは感覺又は觀念が誘因となつて、把住された印象が再び意識上に現れることである。

(4) 再認 再現した觀念を嘗て自ら經驗せるものと認識する作用を再認と云ふのである。再認作

用によつて記憶は完成する。再認の有無によつて記憶作用と他の作用とを區別する。

三、記憶の方法

(1) 機械的記憶 材料の内容の論理的關係に關係せず、繼續せる觀念間の連絡を其の儘反復して印銘するものを機械的記憶と云ふ。地名・人名・年代等を記憶するときは多く此の方法による。

(2) 論理的記憶 材料を相互に内部的關係によつて連結し、過去に於て形成された自己の知識と連絡せしめて記憶するものを論理的記憶と云ふ。此の方法によれば新觀念は全系統の一部として把持されるから、聯想も多様であり忘却も少ない。

(3) 人工的記憶 記憶しようとする材料を、熟知の事柄に偶然的關係によつて結合させ、熟知事項を再現させることによりて、新記憶事項を再現させようとする方法を人工的記憶と云ふ。併し偶然の關係をつけることに心力を徒費することがある。

【類題】 記憶の過程を略記せよ。(愛媛)

記憶作用を分析的に説明し且記憶の方法と教育の關係を述べよ。(鳥根)

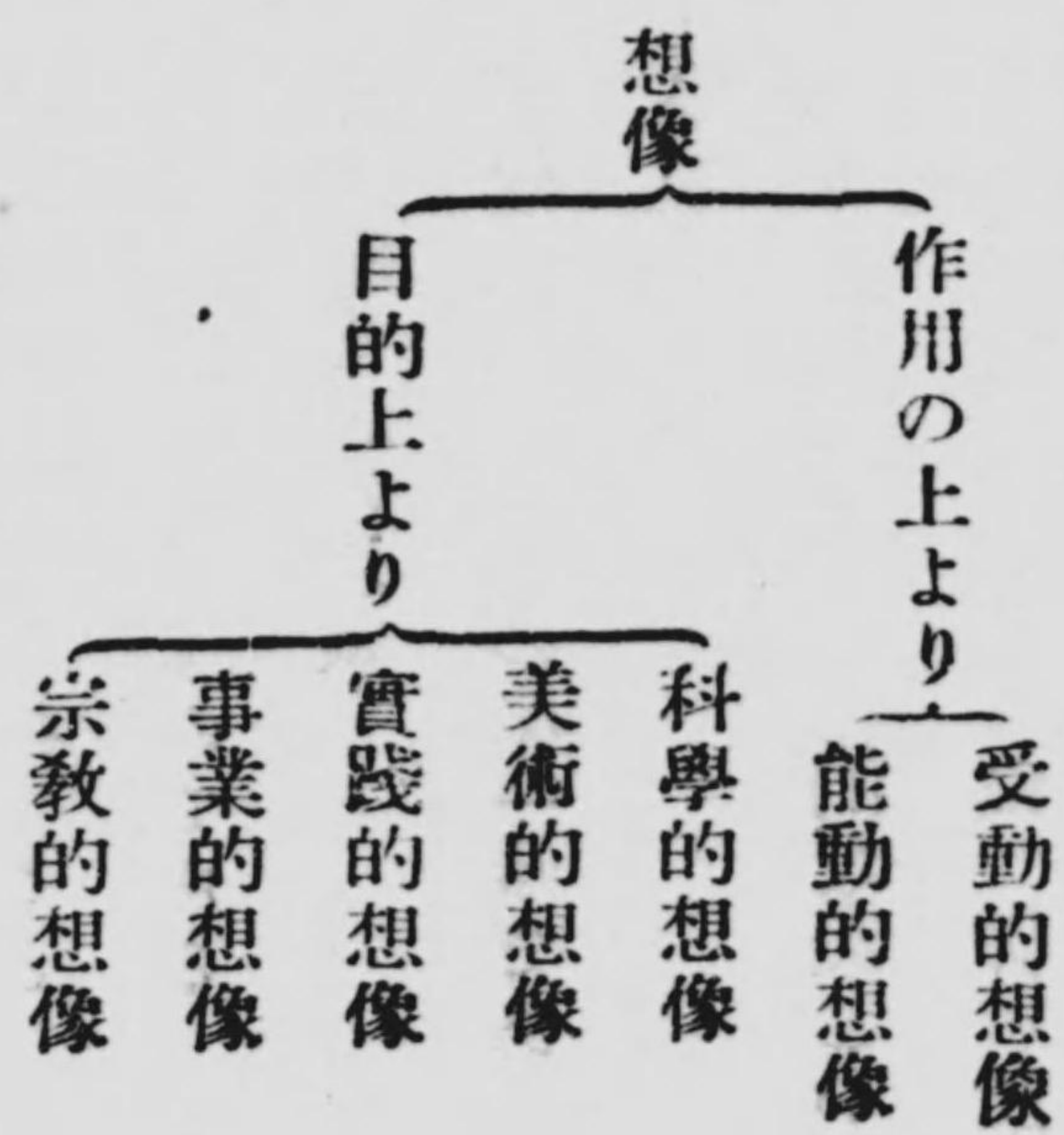
4、兒童の想像の特質を擧げて教育上の注意を述べよ。(鹿兒島)

一、想像の意義

觀念を再生し各要素に分析して、新しい觀念を構成する作用を想像と云ふ。

二、想像の種類

想像は其の作用の上から分ければ、受動的想像と能動的想像となり、目的上からは、科學的・美術的・實踐的・事業的・宗教的等に分つことが出来る。之を表示すれば次の通りである。



三、兒童の想像の特質

兒童の想像は受動的なのが特色である。一定の目的を意識することなく、主觀的に再生的に發することが多い。自發衝動によつて起り系統を欠き事物を有性化することも一大特徴である。有性化

とは天地萬物を人間の如く性あるものと見る傾向である。此の有性化の傾向は常に遊戯中に現はれ又童話・傳説を好むことになる。

凡て兒童は一見想像力に富み、生氣に満ちた様であるけれども、之れは兒童に知識が乏しく萬事を其の狭い經驗から推すこと、或は受動的傾向のあることに依るもので、反つて想像力の働きが幼稚なことを示すものである。

#### 四、教育上の注意

想像は精神自覺の第一歩である。又創造の源泉となるものである。故に想像の教育には最も力を用ひねばならぬ。

兒童の有する有性化的な美しい想像の世界は、實に兒童の特權であるから、大人の心を以て妄りに之を破壊してはならぬ。併し反對に之を煽る必要もない。蓋し想像的幻影と事實とを混同するに至るからである。兒童の虚言の中には此の種の混同に基くものがある。

幼稚な時代は童話・傳説を授けるが、年令の進むに従ひ次第に直觀的教授を加へ、確實なる基礎の上に徐々に能動的實際的想像に導く様にしなければならぬ。而して能動的想像力の養成に與つて力のあるのは、遊戯・圖畫・手工・綴方・算術等である。

兒童の想像は受動的であつて、過度に陥り易く、自然に放任して置けば、現實生活を厭ふ様な空想的人物となることがある。故に卑俗なる稗史・小説等につきては考慮しなければならぬ。要するに妄想や空想の起らない様にし、能動的想像に導き且つ想像内容も價值あるものたらしめなくてはならぬ。

【類題】 想像の種類を擧げて説明し教育上注意すべき要項を記せ。(青森)

(参考) 理想・空想・妄想の概念

一、理想 想像の合理的で完全・圓滿なるものを理想と云ふ。理想は事物の最も完全な最も卓越した情態である。理想は人類のみに存在するものであつて、他の動物には見ることが出来ない。而して吾人の行爲はこれによつて規正される。其の構成は過去の經驗を資料とし、合理的な想像作用によつたものである。

二、空想 想像が最も自由で何等の制限なく、全く實際より離れた状態を空想と云ふのである。空想は目的觀によつて規正せられることなく、觀念が一時的・偶發的に離合集散するものであるから、全く秩序もなく、何等の系統もなく、常規を逸した状態の想像である。

三、妄想 空想が尙一步進みて、其の中に種々の矛盾を含むものを妄想と云ふ。全く不合理な病



云ふのである。

二、概念構成の順序

概念は、(一)比較、(二)抽象、(三)總括、(四)命令の四過程を経て成立するものである。

- (1) 比較 概念構成の第一段は、先づ二つ以上の觀念を比較することである。例へば三角形の觀念を構成せんとする場合は、等角三角形・二等邊三角形等各種の三角形を比較して見ることであり、(2) 抽象 比較した觀念の中から共通點を抜き出すことである。之と反對に相異點を捨てることも同時に行はれるのである。即ち三角形の場合で云へば、三つの直線で圍まれてゐること、平面形であること等を抜き出し、邊の長さ角の大小等相異なる點を捨てる作用である。

(3) 總括 比較抽象された觀念を總括して一つの概念とするのである。

(4) 命名 總括して出來た概念に適當な名目を附けて始めて完全に成立するのである。以上の例で云へば「三角形」と命名するが如きである。概念が言語で云ひ現はされた時は之を名辭と云ふ。言語で云ひ現はすことは、吾人の思想を他人に傳へるためばかりではなく、吾々自身が思考するに欠くべからざるものである。

概念は觀念から以上の四過程を経て完成されるのであるが、概念と概念とが比較された場合にも

同一の四過程を経て更に一層抽象された概念に進むのである。

(參考) 斷定・推理の意義

一、斷定 斷定とは個々の觀念若くは概念間の關係を定め、一つの意味を表すことである。例へば「砂糖は甘し」と云へば、砂糖と甘いとの關係を定めたものである。斷定を言語に依つて表出したものを命題と云ふ。

二、推理 推理とは既知の斷定から新斷定を導き出す作用である。此の際推理の基礎となる既知の斷定を前提と云ひ、新斷定を結論と云ふ。

第三篇 情的現象

第一章 感情概説

一、感情と感覺との差異を明らかにせよ。

一、感情の意義

感情とは内外の刺戟に對して起る主觀の反應であつて、快不快(及び興奮沈靜・緊張弛緩)等の意

識状態である。快不快とは極めて簡単な事實で、各人共通的に經驗する所であつて、説明を要せずして意味を了解し得るものである。凡て感情は意識現象に附隨して起り意識活動の動因をなすのである。

二、感覺の意義

感覺とは感覺機官が内外の刺戟を受けた時に生ずる最も簡單なる心的現象である。

三、感情と感覺との差異

刺戟を與へて感覺が起きれば、同時に快不快の感情も生ずるので、感情と感覺とは密接不離の關係があるけれども、精神事實としての性質は全く相異してゐる。

(1) 感情は感覺に比して一層主觀的である。感覺は同一の刺戟に對しては大凡同一の情態であるけれども、感情は純主觀的反應であるから、同一の刺戟に對しても、人により時と所とにより甚だしく異なる場合がある。併し感覺と雖も全然同一に起るものでないから、感情は比較的主觀的だと云ふに過ぎない。

(2) 感覺は注意すれば一層明瞭となるが、感情は注意し内省して之を調べようとするれば、消滅するか成は弱くなつて不明瞭となる。

(3) 感情の質は快不快(興奮沈靜・緊張弛緩を加へて三方向とするものもある)のみであるが、感覺は感官を通じて無數の多きに及ぶ。

要するに感情は感覺の屬性でなく、全く別種の意識構成要素である。而して感情は主觀的要素であり感覺は客觀的要素であることが出来る。

(參考) 感情の三方面

感情の種類に就ては、從來は快と不快の一方だけ認められてゐたが、ヴントはこの外に、尙興奮と沈靜、緊張と弛緩の二方向があることを主張したのである。例へば赤色は吾等の心を引立たせるやうな氣分を起させ、青色はこれに反して吾等の心を落着けるやうな氣分を與へる。前者は即ち興奮の感情で、後者は即ち沈靜の感情である。或る刺戟が今來るか來るか豫期してゐる場合には張りつめたやうな感じが起り、その豫期した刺戟が現はれると直ぐに弛んだ氣持を生ずる。前者は即ち緊張の感情で後者は即ち弛緩の感情である。そして緊張・弛緩の感情は總べて注意作用に伴ふものである。(乙竹岩造氏新心理學)

2、複合感情とは何ぞや。

一、複合感情の意義

感覺に伴つて起る最も簡單な感情を單一感情(又は感應)と云ふ。單一感情が同時に融合し統一すれば、一つの新しい感情が成立する。之を複合感情と云ふのである。吾人が日常經驗する所の感情は單一感情ではなくて、この複合感情である。

二、複合感情の種類

(1) 一般感情

皮膚感覺・味覺・嗅覺・有機感覺等から起る感情の融合して成る單純な複合感情を一般感情と云ふ。例へば身體に故障を生じた時に不快を感じ、健康な時に快を感じる情、通常云ふ氣分などは一般感情である。

(2) 初等美的感情

視覺・聽覺に伴つて起る複合感情は極めて複雑であつて、通常美的快又は不快の感を起すものである。これを初等美的感情と云ふのである。美的感情は元來複雑なものであるが、初等美的感情は要素的の美感である點に於て、高等美的感情と區別する。

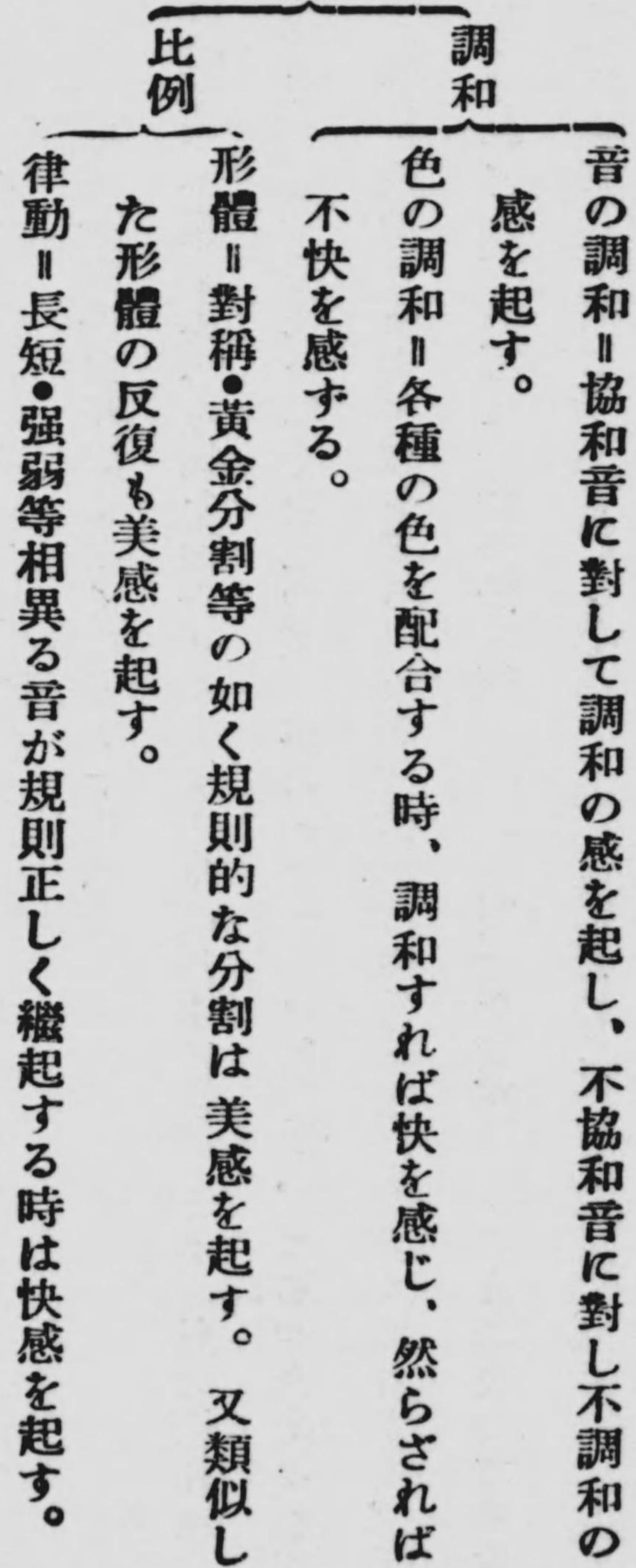
第二章 情緒

1、例を擧げて情緒を説明せよ。(京都)

一、情緒の意義

情緒は簡單感情の結合からなつたもので、本能運動に伴ふ強き感情である。簡單感情が結合する形式に二方法ある。即ち同時的結合と繼起的結合である。而して情緒は繼起的結合である。例へば辱しめられて怒り、賞められて喜ぶが如く、複雑な感情の時間的進行である。従つて觀念の進行に

初等美的感情の種類





も變更を與へ、身體の情態にも變化を及ぼすものである。

二、情緒の種類

情緒は人間生活の複雑なるが如く複雑であつて、其の數も極めて多く、悉く之を列擧することは出来ない。今其の主要なるものを示すこととする。

(1) 恐怖 恐怖は將に來らんとする危害を豫想して起る情緒である。故に何等危害を感じない時には起らない筈であるが、時には始めて見聞する事に對して、本能的に恐怖することがある。之れは個體が祖先の經驗を遺傳的に繼承して本能的に恐怖の感を有するのである。小兒が暗黒を恐れるのは其の適例である。恐怖は早くより現れ、生後二十四時間後には既に存在すると云ふ。恐怖の甚しく起つた時は、身體は畏縮し生活機能は順調を欠くに至ることもある。

(2) 憤怒 憤怒は自己に不快感を與へる物を除去せんとする時に起る情緒である。此の情緒は生後二ヶ月乃至三ヶ月で發現する。恐怖の如く自己の保存が目的であるけれども、身體的表出の形式は全く異なり、恐怖は血管を收縮し筋力を減少するに反し、憤怒は血管擴張し筋力も増加する。又恐怖は不快の感に止まるけれども、憤怒は一時不快に傾き次に反對者を威壓することによつて多少快に傾くのである。憤怒は勇氣・正義の基となることもあるが、性質は反社會的である。

(3) 自尊と卑下 自己の價值を確認した時は自尊の感が起り、價值少く他人に劣れるものと認められた時は卑下の情が起る。自尊心は既に三歳頃になれば現れ、「僕は大将になる」とか云つて餘程偉い者の様に考へてゐる。正當なものは勇氣・果斷・努力の源泉となり、獨立心の基となるが、自己の價值を過大視する時は傲慢・自負となる。併し甚しき卑下は自暴自棄となり、向上の念なき人となるから共に教育上注意しなくてはならぬ。

(4) 同情 同情は他人の快不快を自己の快不快の如く感ずる情である。幼兒が他人の泣くのを見て泣き、他人の笑ふのを見て笑ふのは生理的反射的同情であつて、一歳にして既に起るが五六歳頃が最も強い。此の生理的同情から次第に發達するものである。

(5) 愛情 對者に親しみ之を保護し其の幸福を希望する情である。其の範圍も甚だ廣く、時には生物は元より無生物にまで及ぼすことがある。

2、情緒の時間的經過の情態につきて述べよ。(熊本)

一、情緒の意義

賞せられて喜び家人の死に遇ひて悲しむが如く、自他の利害關係に即して起る強き感情を情緒と云ふ。

## 二、情緒の時間的經過

或る刺戟によつて情緒が起る場合を考へて見れば、時間の經過するに従つて、其の状態も自ら變化するのである。極端に云へば寸時も同一情態を保ち得ないのである。其の變化しつつある經過を大體三期に分ける。即ち第一期發端期・第二期中間期・第三期終末期である。

第一期 發端期 對象たる觀念によつて、それに對する感情が起る時期を第一期とする。例へば友人が死んだと云ふ悲報を受けたとする。此の時には之を對象として、先づ悲しみの情が起るのである。

第二期 中間期 對象たる觀念から聯想して諸種の觀念が再起し、此の再現した觀念に伴つて感情の起る時期を第二期とする。例へば友人の死に接して悲しみの情が起つたとすれば、それに續いて種々の思ひ出にふける。或は學生時代に同じ教室で學んだこと、共にテニスをしたこと、夕食を共に食べたこと等數限りなく思ひ起す。これ等の思ひ出に伴つて感情が起るのである。

第三期 終末期 觀念が消えると共に感情も次第に消失する時期を第三期とする。即ち種々起つてゐた感情を次第に漠然となつて、終には消えてしまふのである。大凡斯の如き時間的經過をとつてゐるのである。

## (參考) 情緒の身體的表出

情緒の身體的表出は基だ複雑多様であつて、其の脈搏・呼吸等感應に表るゝものゝ外、尙左の諸種の現象を呈する。

一、涙腺・汗腺等の分泌機關及び内臓の諸機關の混亂を來す。例へば恐怖甚しきに至るときは、皮膚は蒼白となり、唾腺の分泌作用停止して口中を乾燥し、身體收縮して戰慄を起し、毛髮立ち、冷汗流れ、時としては下痢及び嘔氣を催すことすらある。

二、全身の態度を變じ、手足の運動を起し、時としては感嘆の語を發する。忿怒に際して思はず腕を扼し、拳を握り、攻撃の態度を執る如きは其の一例である。

三、殊に著しく、顔面就中目及び口に於ける種々の表出を伴ふ。従つて、顔面の表情によつて、大凡其の人の情緒を推知することが出来る。

そして是等の生理的變化は更に有機感覺となつて情緒に反響し、益々之を亢進せしめる。斯く情緒と其の身體的表出とは頗る密接の關係を有するので、或學者は此の身體的表出こそ情緒の原因である。「悲しいから泣くのではなくて、泣くから悲しいのである。」とまで説くに至つた。この説の正否は暫く措き、我々は表情を制することによつて、或度迄情緒を静め、反對に又一定の表情を眞

似ることによつて、或度迄之に應ずる情緒を誘起することが出来る。(篠原・小川・佐藤氏著 心理學改訂版)

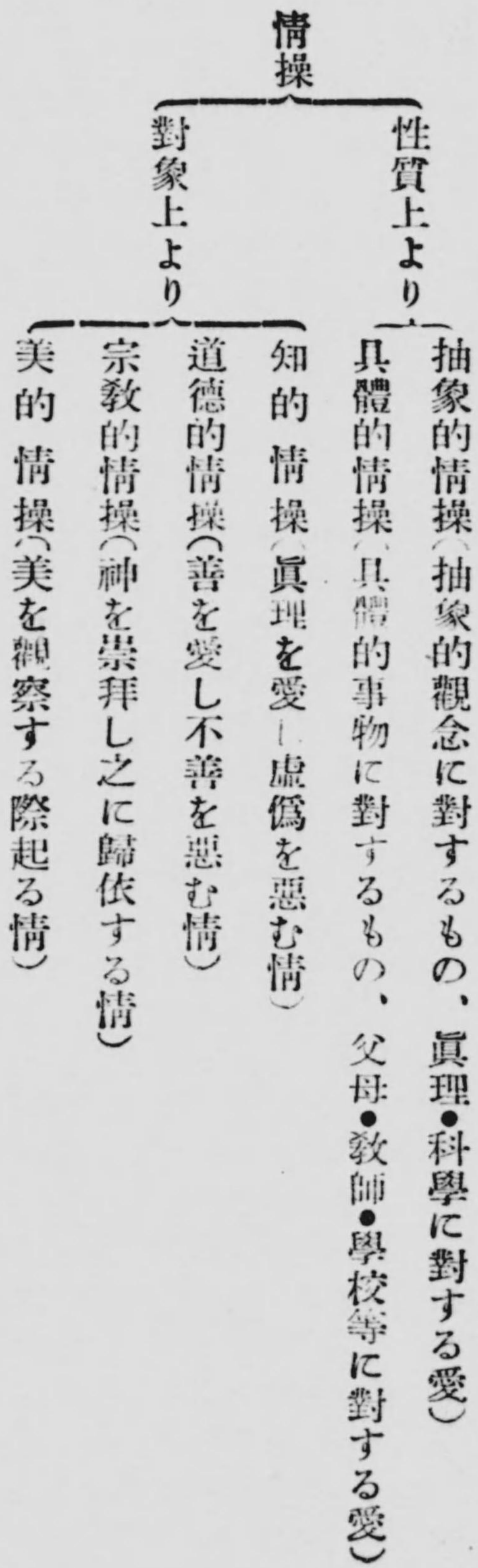
### 第三章 情 操

#### 1、情操の意義及種類に就て述べよ。(福岡)

##### 一、情操の意義

高等なる知的作用に伴ひて起る感情を總括して情操と云ふ。情緒は或る對象に對して一時的に起る強い感情である。若し情緒が同一事物に對して度々反復される時は、習慣性となり固定した感情の傾向となる。例へば幼兒が母を見て喜ぶのは情緒であるが、此の情緒が度々反復されるときは、竟には母そのものに對しての愛敬の情が起る。即ち始めは母が乳を與へて呉れるとか云ふ利害關係から起つた情も、竟には利害を離れて母そのものに對する情となるのである。これが情操である。故に情緒と情操とは確然たる區別がない。情緒が比較的不易な性向となつたものを名づけて情操と云ふのである。従つて情操が急に促進すれば情緒となり、情緒が緩和して永續的傾向となれば情操となる。

#### 二、情操の種類



【類題】 情操の意義を問ふ。(埼玉)

#### 2、兒童の感情について教育上注意すべき事柄を問ふ。(愛知)

感情教育の要點は抑制と助長とに盡きる。即ち教育の理想に照して、不良なる感情を抑制すること及び善良なる感情を助長することである。

##### 一、抑制方面

(1) 不良なる感情を抑制すると云つても妾りに抑へるべきものでない。先づ其の不良感情を起させる所の原因を遠ざけることが必要である。原刺激を遠ざけることによつて、起つてゐる感情も弱

くなり、且つ再び起すこともなくなる。

(2) 次に反対感情を起させて相互に相殺せしむること、及び他の適當な刺戟によつて注意を轉向せしむることが必要である。此の相殺と轉向とは感情抑制上最も有力である。

(3) 知識の發達に伸ひ、正邪善惡を反省せしめて抑制することが必要である。

## 二、助長方面

(1) 感情は暗示性に富んでゐる。兒童は父母・教師から暗示を受けることが多い。故に父母・教師は常に善良快活な感情の持主であらねばならぬ。一つの表情でも忽にしてはならぬ。

(2) 感情は周囲の事情に影響して起ることが多い。故に家庭も學校も共に環境を整理し、良好な刺戟に浴せしめ、不良な感情の起る餘地を與へない様にすることが必要である。

(3) 感情を實行と結びつけることは、感情を發達せしめる所以である。故に藝術的教育によりて美的感情を養ひ、慰問・見舞・公共の仕事等を實行せしむることによつて、道德的感情を養ふことが必要である。

(4) 知識が向上すれば、従つて批判力も進み、感情教育にも間接的に影響するものであるから、此の點に關しても考慮を置かねばならぬ。

## 第四篇 意的現象

### 第一章 意志概説

#### 意志發達の順序を述べよ。

##### 一、意志の意義

意志とは或る目的觀念を實現しようとして發動する意識作用である。即ち意識の發動的方面である。意志を外面に表れた方面から見れば、何等かの行動になることが多いが、行動即ち意志ではない。其の行動を起すに至る内部的原理が意志である。

##### 二、意志の發達

###### (1) 原始的意志

原始的意志は衝動的運動として表はれる。幼兒の意志は多く之に屬する。一説には反射運動は意識の媒介なくして、全く機械的に行動が表れるものであるから、衝動運動より一層單純であつて、従つて原始的であると云ふ者もある。併し機械的作用である反射運動から、如何にして選擇的行動

たる意志作用が発生したかを説明することが出来ない。蓋し反射運動は無目的・生理的であるから、目的意志の發達すべき素因を有しないからである。

(2) 意志の進化的發達

衝動運動は動機が單一であつて、何等思慮なく發動するものであるけれども、理知が發達し經驗が加はると共に、二個以上の動機が起り、思慮撰擇の結果行動するに至る。斯くの如く單一意志より思慮的意志へと進む發達を、意志の進化的發達と云ふ。

(3) 意志の退化的發達

思慮的意志も、同一行動を反復するに従ひ、習慣的となり、單一意志となり機械的となる。此の意志の習慣化することを、意志の退化的發達と云ふ。

(參考) 意志の意義

心理學では動機より始まり動機の満足に至る生理的・心理的過程を總稱する多義の概念である。

(一)、狹義では執意又は有意的意志(隨意行爲)と同義で目的表象が意識的に全過程を規定するが故に、或事を遂行すると云ふ意識が明瞭に存在し(有意的と云ふ所以)活動感情を伴ふ。(二)、廣義では衝動を含め、場合によると(ヴントの如きは)更に反射運動及び自動運動をも含める。(錦田氏哲學辭典)

第二章 反射・本能

一、運動の種類を説明せよ。

人は外界から刺戟を受けた時は、何等かの運動を起して、外界に對して順應せんとするものである。運動は筋肉を伸縮することによつて行はれる。多くは心的活動に伴つて起るけれども、何等意識活動なく單に生理的現象として起るものもある。食物の消化・養分の吸収・血液の循環等其の例である。

今運動を心意の管理を要することの有無多少によつて分けて見れば、次の如くである。

一、反射運動

無意識的に一定の刺戟に對して、直ちに起る運動であつて、大腦以外の中樞から起るのである。反射運動の中にも瞳孔の伸縮の如く、全く無意識の中に行はれるものと、瞬き欠伸の如く運動後意識されるものとある。

二、衝動運動

感覺又は觀念に伴つて直ちに發現する無意的運動が衝動運動である。例へば奇麗な花を見て無意

に探らんとし、食物を見て知らず識らずそれを食べんとする等は、何れも衝動運動の現はれである

### 三、本能運動

幼児が吸乳し、啼泣すること、或は鳥が巢を作り、蜘蛛が網を張り、蛇が冬眠するが如き、複雑な遺傳的運動を本能運動と云ふ。本能運動は意識的に行はれるが、目的觀念は欠如してゐることが多い。

### 四、有意運動

幾つかの衝動が相争ひ、意志を用ひて選擇作用が行はれ、其の結果一つの運動として現はれる場合を有意的運動と云ふ。例へば空腹の時之を満足させる所の、てんぶらとうどんとを想ひ起した時どちらを選んでも自由であるが、てんぶらは不消化であると考へて、うどんを選擇して之を食べるが如きである。

### 五、自動運動

最初有意運動であつたものでも、反復練習するに従ひ次第に意識の度を失ひ、遂に全く無意識的運動となる。これを自動運動と云ふ。談話歩行等の如きはこれである。

### 2、反射運動とは如何、例を擧げて説明せよ。(大阪)

#### 一、反射運動の意義

一定の刺激に應じて無意的に直ちに起る運動が反射運動である。即ち感覺的刺激が神経中樞を経ないで、脊髓又は延髄に於て直ちに運動として現はれるものである。此の運動には瞳孔の縮張の如く、消化の際の胃腸の如く、刺激も運動も全く無意に終るものと、咳・欠伸の如く其の結果が意識されるものとある。前者は生理的反射であつて、後者は感覺的反射である。

#### 二、反射運動の性質

(1) 反射運動は外來の刺激に對して機械的に反應するものであつて、且つ自己保存の目的に適する運動である。此の機械的に反應するものは、感覺と運動との間の通路が、遺傳的に完成してゐるからである。即ち感覺神経と運動神経との聯絡が、先天的に固定してゐるのである。

(2) 反射運動は遺傳的ではあるが、生後直ちに凡ての反射運動が發現するものではない。神経中樞の發達するにつれて漸次現れるのである。例へば咳・嘔めは生後數日で現はれるが、瞬きの如きは生後十一週を経て始めて現はるが如きである。

(3) 反射運動は其の時の心身の情況によつて變化するものである。例へば同一刺激でも、神経の疲労してゐる時は烈しく運動し、他の愉快な仕事に従ひつゝある時は反應が弱いのである。

(4) 反射運動で行ひ得ることを、故意に意識的に行はんとすれば、却つて運動が圓滑に行はれないことがある。例へば飲食物を嚥下することは反射的に行はれるが、丸藥等を嚥下する場合に、故意に行はんとすれば、非常に困難を感じるが如くである。

(5) 反射運動には變化性がある。此の中にも瞬を忍ぶが如く意識の支配によつて直接に行はれるものと、幼児が満腹となり吸乳を中止する如く、有機體の状態によつて直接に行はれるものとある。

### 3、本能の發現につきて例を擧げて説明せよ。(和歌山)

#### 一、本能の意義

豫め目的を知ることなく、又之に對する何等の教育も受けないうで、而かも能く目的に合するが如き運動をなす、先天的能力を本能と云ふ。本能は祖先以來同一行動を反復した結果が遺傳したものであるとされてゐる。

#### 二、本能の發現

##### (1) 本能の定期性

總べての本能が出生と共に現れるものではない。發現には一定の時期がある。このことを本能の定期性と云ふ。食物を攝取するの如く、出生と同時に現はれるものを同生本能と云ひ、生殖本能

の如く一定の時期になつてから現はれるものを遅發本能と云ふ。

##### (2) 本能の一時性

本能が發現する時機に、之を發現するに足るべき適當な刺激を欠く時は、遂に其の本能は發現しないで止むことがある。之を本能の一時性と云ふ。例へば雞の雛についての實驗を見るに雛が運動してゐる物體を追ふ本能は、生後四日以内に起るけれども、若し其項目を隠して置き、四・五日してから取り去つても、追及本能は發現しないのである。

##### (3) 本能の早期特化性

本能は發現當時に於て、域る特別な刺激と關係を結ぶ時は、其の本能は他の刺激に對しては起らなくなる。之を本能の早期特化性と云ふ。例へば幼時に始めから哺乳器を用ふる時は、其の後になつて母の乳房を與へても含まない様になるのである。

### 4、本能の種類を列擧し簡単に説明せよ。(新潟)

#### 一、本能の意義

本能は一定の刺激に對して起る複雑なる反應で、何等目的を豫知することなくして而かも能く目的に適合する行動をなし得る所の、遺傳的な能力である。

二、本能の種類

本能を其の目的より區別して、(一)個人的本能、(二)種族的本能、(三)社會的本能、(四)發達的本能の四とする。

(1) 個人的本能

個人の保存と幸福とを目的とする本能である。故に他人の利益幸福と衝突することもあり得る。其の主なるものを舉げて見れば、食物の攝取に關する營養本能、自己防衛に關する争闘・逃匿・排斥本能・自己を主張せんとする本能、反社會的である所の侵略・人見知りの本能等である。此の本能の情緒的方面は特に著しく現はれるもので、自己の防衛に關しては忿怒・恐怖・嫌惡等となり、自己主張に關しては自尊・倨傲・卑下等となり、反社會的な方向としては輕侮・怨恨・羞恥等となる。

(2) 種族的本能

種族全體の保存と幸福とを計ることを目的とする所の本能である。其の主なるものは、生物が種族の繁榮を圖る所の生殖本能、子孫を養護する所の養護本能等である。此の本能は著しく情的色彩を伴ひ、慈愛・嫉妬・親子の愛情となつて現はれる。

(3) 社會的本能

社會の存續發展等を目的とする本能を社會的本能と云ふ。群集本能・共働本能・愛他本能等が其の主なるものである。其の感情的方面としては、同感・同情・友情・献身等である。

(4) 發達的本能

發達の本能は、外界に順應するに必要な本能で心身發達の基礎ともなるものであつて、一名を順應本能とも言ふ。其の種類も非常に多く、教育上から見ても特に注意を要すべき本能である。

イ、遊戯 最も自由に且つ愉快に隨意筋によつて運動する所の自發的活動であつて、他の目的を意識せず活動の爲めに活動すると云ふ特色がある。

ロ、模倣 他人の行動をそのまま反復する行動が模倣である。之れに無意識に起る暗示的模倣と意識的に起る所の意識的模倣とがある。

ハ、探究本能 新奇なる事物に對して探究せんとする本能である。兒童は著しく好奇心に富み、故意に玩具等を破壊するのは此の本能の現れである。

ニ、構成本能 種々の材料を用ひて一つの物を構成せんとする本能である。砂遊び、積み木細工等に興味を持つは、その現れである。

ホ、蒐集本能 繪葉書古切手等を蒐集し、之を貯藏して楽しむのは此の本能の現れである。



5、遊戯の本質に關する説を論じ、其の教育的價值を述べよ。

一、遊戯の本質に關する學説

(1) 反復説

反復説とは過去に於ける種族の經驗を反復するものが遊戯であるとなす説である。所謂的説原理を以て遊戯を説明するものであつて、個體の發達には種族の發達した階程を反復するものと云ふことが根本をなしてゐる。此の説によれば遊戯は兒童の現在及將來にとりて、何等の意味があるのではなく、種族の經驗した所を個體發達の中に反復してゐるに過ぎないことになる。

(2) 勢力過剩説

高等動物は生命保存の必要以上に勢力が過剩する。此の過剩した勢力を發したものが遊戯であるとする説である。スペンサー等の唱ふる所である。

(3) 準備説

遊戯は兒童が將來の生活に必要なことを準備してゐるものであるとする説である。自然淘汰の結果準備となるが如き遊戯を有つもののみが残存してゐると解する。反復説は過去の反復としたが、此の説は將來の準備であるとした所に著しき差異がある。

以上三説につきて批評を試みるに、反復説は何故に反復するかを説明することが出来ない。勢力過剩説について見れば、勢力の過剩しない時でも遊戯することがあり、且つ遊戯の爲めに却つて疲勞することもある。準備説について見るに、遊戯を將來の準備の爲とみることは、種族的に見た時のことであつて、個人的には現在の要求に過ぎないのである。要するに此の三説は一面の眞理を見たもので、其の中の一を以て總ての場合を説明することは出来ない。

二、教育的價值

(1) 遊戯は四肢の動作を伴ひ、且つ愉快的な心情を以て活動するので、不知不識の間に健康を進め體力を増進することが出来る。

(2) 遊戯によつて感覺・知覺・記憶・想像・推理等の知的方面を初めとし、親愛・勇敢・協同等情意方面にも影響するので、知情意全面の陶冶をすることが出来る。

(3) 學習形式を遊戯的たらしむる時は、兒童の本性に適するから、學習を徹底せしむることが出来る。

(4) 遊戯は赤裸々な自己活動であるから、個性を伸長すると同時に、其の觀察上に最も便利を與へる。

## 第三章 衝動・慾望

434

- 1、左につきて知れることを記せ。「衝動」(東京・埼玉・北海道)
- 一、衝動の意義

衝動とは刺戟が現はれると共に、前後の思慮もなく運動を起さんとする意識状態を云ふのである。例へば小兒に玩具を示せば直ちに之を掴まんとし、餓にせまつてゐる人にパンを示せば、前後の考なく之に手を出さんとするが如きである。

要するに衝動は思慮的動作に對するものであつて、内部の壓迫によつて、理非曲直を顧みるの邊なく發動するのが其の特徴である。

## 二、他の運動との比較

- (1) 反射運動は無意識的生理的であるが、衝動運動は刺戟に對する知覺と之に對する感情とを持つてゐる所の意識的動作である。
- (2) 衝動運動は盲目的に發現し、何等思慮を用ひない點に於て思慮的運動と異なる。
- (3) 衝動と本能とは其の形式に於て全く同一である。心理的に見ても差異を認めない。故に兩者

は同一義に使用されることがある。併し其の差異點を擧げて見れば、本能は刺戟と運動との連絡が先天的に決定してゐるが、衝動に至つては必ずしも先天的ばかりでなく、經驗による場合もある。要するに衝動の方が範圍が廣いのである。

## (參考) 衝動の意義

衝動に二種あり、是を混交するによつて思想の錯雜を生ずる事少なからず。第一義は純然たる生理的作用を意味す。即ち神經の中樞が緊張して將に身體に運動を生ぜんとする状態を云ふ。例へば將に自動的運動を生ぜんとする時の如し。第二義は心理的作用を意味す。即ち現在の我の状態に満足せずして、感官若しくは想像が我に示したるも未だ我が有せざるものを、やゝ有意識的に求むる心意の状態を云ふ。心理學の術語としては必ず第二義に用ひざる可らず。(河邊治六氏教育大辭書)

## 2、慾望・偏向・性癖の意義を明らかにせよ。

## 一、慾望

慾望とは自己に快感を與へると信ずる事物を得んとして、未だ得ない所の不安の状態である。現在缺乏を感じてゐる我と、それを滿された後の我とを對照することによつて起るものである。

衝動は直ちに動作となつて外部に現はれんとするのであるが、若し何等かの事情によつて實現が

435

妨げられるときは慾望の形となるのである。

二、偏向

類似の慾望の満足が反復され、習慣となり、固定した時は之を偏向と云ふのである。偏向は一方に偏した慾望であつて、竟に常態を失し、異常に之を満さんとするに至るものである。例へば芝居活動・圍碁・テニス等に耽るが如きである。

三、性癖

偏向が更に進みて、所謂第二の天性の如く固定したものを性癖と云ふ。飲酒喫煙の慾の如きは多くは性癖となり、教育の力では殆んど制止することが出来ない程になることがある。

第四章 執意

意志作用が如何なる過程をとりて行はるゝかを説明せよ。(北海道)

茲に言ふ意志は狭義の意志作用即ち執意と同義に見て解答す。今意志作用の過程を實例に徴して説明して見よう。先づ空腹となつた際は其の缺乏を感じ苦痛が伴ふ。次に何か食べたらとの目的觀念が起り、其目的達成後の快樂を豫想する。次に目的物を得んとする慾求となる。茲に動機が成立

したのである。目的物は一つとはきまらない。即ち空腹を満す場合に、御飯・うどん・パン等の何れかを得ようとする數個の動機があつたとすれば、其の中から最も適當なものを選択し、愈々決定した上で行爲となつて現はれるのである。今之れを主なる段階に分けて説明すれば次の如くである。

(一) 動機

有意動作には必ず目的觀念がある。之に感情が伴なつて行爲の因をなすものであつて、之れが即ち動機である。目的觀念は動機の靜的要素であり、感情は動的要素である。

(二) 思慮

動機が一つきりであることは殆んどなく、多くは二つ以上共存するのである。その何れを實現しようかと考慮する段階である。即ち空腹を満す場合に、御飯にしようか、うどんにしようか、パンにしようかと思ひ惑ふことである。

(三) 選擇

二つ以上の動機を其の場合の事情に照して、一方の動機を選び他を排すことである。

(四) 決定

動機の一つを選択し、愈々實現せんとすることは決定である。決定には安固の情が伴ふ。

## (五) 行爲

決定が動作に實現されることが行爲である。行爲は意志作用の最終段階で、之で全く完成するのである。行爲の後には満足感が伴ふべきである。

## 第五章 順應・習慣

## 1、環境に順應するには如何なる方法に依るか。

兒童は生れ落ちるや否や遺傳的な順應力によつて、盛んに環境に順應せんとするのである。然るに環境が變化し複雑となるにつれて、遺傳的方法のみでは完全に應ずることが出来なくなる。そこで新しい方法を習得しなければならなくなる。今其の方法を概括的に舉げて見れば次の三種となる。

## (1) 試行錯誤法

無計劃無考慮な方法で行ひ、終に偶然の結果で成功するものが試行錯誤法である。即ち甲の方法で失敗するときは乙の方法により、それで失敗すれば丙丁……と手當り次第に種々の方法を講じて、終に偶然に成功するものである。動物及び幼兒に多く見る所であるが、成人と雖も意識的に之に依

る場合もある。

## (2) 模倣

模倣は類似境遇にある他人の方法を其のまゝ取り入れ、一舉にして完全な効果を收めんとするものである。兒童の順應は多く此の方法である。有意的に模倣することは、初歩の學習には殆んど凡てに互つて行はれることであるが、就中技能に關する教科はこれによることが多い。

## (3) 知識の利用

一定の目的又は計劃の下に、眼前の事情に多少類似せる知識を利用して、新境遇に順應する道を講ずるもので、知力の進んだ後適用される方法である。

(參考) 試行錯誤に關するワトソンの實驗

亞米利加のワトソン教授の實驗した一つの例を擧ぐれば、大きな箱の中に八幡の藪知らずの、如きぐるぐると廻つた迷路を作つて、其の間には袋路も有つて、其袋路に這入ると後戻りをしなければ前方に進む事が出来ない様にしてある。そして其一番終りの處に鼠の餌を入れてある。そして其の入口の處から鼠を入れると最初第一回の時は鼠は其迂餘屈曲して居る道をぐる／＼廻つて餌の在る處へ進んで行くが、彼方へ當つては後戻りを爲し、此方へ突當つては又後戻りして進むと云ふ風

で、餘程時間を費して漸く目的の餌に達して飢を醫することが出来る。第二回目・第三回目と順次回数を重ねるに従つて餌に達する時間は減少して遂に何回目かには少しも途を迷はずに、一定の路筋を通つて食特に達することが出来る様になる。かくして目的を達するに要する時間が一定して早くも遅くも成なぬ様になれば則ち學習が完成した譯で、夫迄に何回反復せねばならぬか、又學習の進行が如何様になつて行くか、目的を達する迄の時間の多少を測定して學習の進歩の有様を現はすことが出来る譯である。(速水氏現代之心理學)

【類題】 左につき知れる事を記せ。「試行錯語法」(福岡・長崎)

學習方法の主なるものを舉げて其の指導の要點を述べよ。(佐賀)

## 2、習慣形成の心理に就て述べよ。(福岡・北海道)

### 一、習慣の意義

同一の行動を屢々繰返す時は、生理的に見れば神經傳達路が固定し、心理的に見れば運動に伴ふ意識の程度が減少し、竟には機械的に一定の方向に向つて行動せんとする傾向が出来る。此の傾向を習慣と云ふのである。

### 二、習慣の形成

一度行つた動作は、それだけ神經接觸部に通路が開け、習慣へと進むことになる。故に同一の行為を反復することは、其の通路の抵抗を益々少くして、他の通路よりも刺戟の傳播が容易となるから、常に行動は此の通路に依らんとするに至る。之を要約して云へば運動的神經原と感覺的神經原との接觸部の低抗が少くなり、一定の通路が開通固定するのが即ち習慣の形成である。

### 三、習慣形成の時期

習慣が形成されるのには、自ら一足の順序と時期とがある。就中最も大切なのは兒童期から青年期に至るまでである。衣服の著方・言葉の遣ひ方・態度・其他各種の習慣は大抵二十歳頃までに完成される。故に此の時期に下品な言動に生活した者は、其後如何に高尚たらんとしても、尙どことなく野卑な言語態度が残るものである。次に二十歳から三十歳位までの間は、職業的習慣の形成する時期である。此時期を過ぎた人は、一見如何なる職業に従事する人であるかを判定し得るのである。

### 四、訓育上の注意

斯の如く習慣の形成には實行反復を要件として、且つ一度形成された習慣は、容易に改變することの出来ないものであるから、訓育上から見て善良なる習慣を養成するには、細心の注意を要するのである。其の要點を列擧すれば次の通りである。

- (1) 強固な決心を以て當ること。
- (2) 習慣を形成するまでは絶対に例外を許さぬこと。
- (3) 機会を逸せず之を有意義に取扱ふこと。
- (4) 理論を説くよりも實行せしむべきこと。

(参考) 習慣と本能との異同

類同點

感覺と運動と緊密に連絡す。

意識の管理を要せず。

動作に快感を伴ふ。

差異點

習慣は後天的であるが、本能は先天的である。習慣は各人に差異があるが、本能は種族的に共通してゐる。

(参考) 習慣の効果

習慣は(一)動作をして正確・迅速・一樣ならしめ、(二)動作に伴なふ疲労を減ずるのみならず、

(三)其の始め意識的に努力を要せしものをも、全く機械的に變じ、意識をして更に進みて新しき活動を開始する餘地を生ぜしめ、人をして絶えず向上發展せしむ、若し世に習慣なからんか、吾人の精神は常に日常の些事にのみ齟齬たるの外なく、復た何等の進歩を見ることが能はざるべし。(小川・佐藤・篠原氏輓近心理學)

## 第五篇 作業

### 第一章 作業の性質

#### 1、作業と遊戯との異同を述べよ。

##### 一、作業の意義

作業とは目的を有する活動である。其の活動が精神的である時を精神作業と云ひ、身體的である時を身體作業と云ふ。

##### 二、遊戯の意義

遊戯は他に何等の目的觀念のない、それ自身のための活動である。

三、兩者の異同

遊戯には活動以外に目的がなく、作業は活動の結果を目的とする。従つて活動の過程を見るも作業には或る程度の努力を感じるが、遊戯は圓滑に進行して且つ興味の伴ふのが普通である。

作業と遊戯との區別は絶對的のものでない。作業にでも興味を感じて來れば、所謂熱中して何等の努力の感も目的觀念もなくなり、作業それ自身のために作業してゐる様になる。即ち遊戯化した場合である。兩方の區別は目的の所在によつてつけたものであつて、活動そのものではない。故に野球とかダンスと云ふ事は、娛樂的に行へば遊戯であるが、營業的に行へば作業となる。作業と云はれる場合は、其の結果を實利的に見た時のことである。

2、作業曲線。(長崎)

一、作業曲線の意義

繼續して作業を行ふ時は、その成績は前後一様でない。例へば最初困難な作業も、その進行に伴ひ漸次に調子づいて一般に能率を高め、後には疲勞を生じて却つて能率を減ずるが如きこれである。かく一定期間に於ける作業量の變化を表はしたものを作業曲線といふ。

二、作業曲線の條件

作業の進行に曲線を描かせる條件は數々あるが、その主なものを挙げると、練習・疲勞・習慣・興奮及び注意等の情態である。そこでこれ等の諸條件が作業に對する關係を考へて見よう。

先づ練習は概して作業の働きを増進するもので、疲勞は常にこれを減殺するものである。次に習慣は作業をして、作業に對する不安の情及び内部の緊張を除去して、熟知の情を生じさせ、そして作業能率を増すものであるし、興奮は作業の進行と共に、各種の共働的活動を促がして仕事を調子づけるものである。更に注意に至つては絶えず律動的に動搖するものであるから、無論作業の曲線的進行には影響を與へるものである。(乙竹岩造氏新心理學に據る)

第二章 練習

1、練習の個人的型式を説明せよ。

一、練習の意義

有意的に行動を反復して新習慣を形成する作用が練習である。練習を重ねることによつて其の機能は確實に作用する様になり、意識を有する程度が尠くて、且つ機能の速度と強度とを増すことになる。これが熟練である。熟練は動作を簡單にし精神力を節約し、而かも優良なる結果を收むる利

益がある。

二、練習の個人的型式

練習を重ねて熟練に至るまでの過程は、各個人の特質によつて自ら異なる。通常之を次の五つに分つのである。

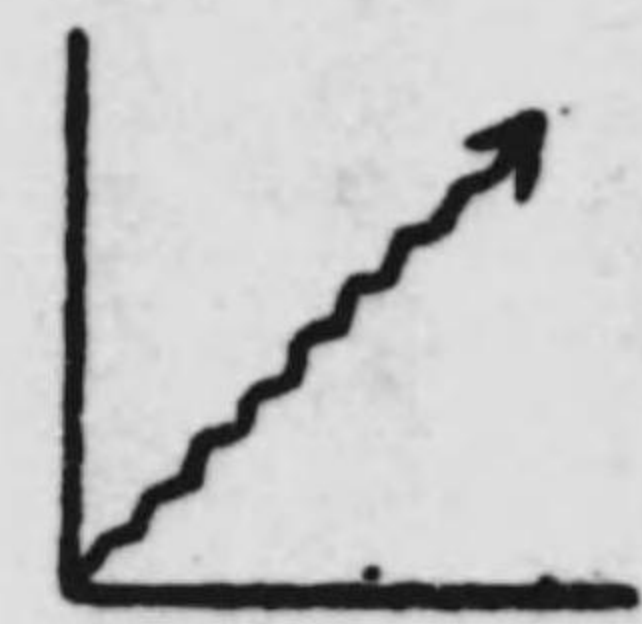
(1) 直進式 練習の初めから終りまで一様に進歩するもので、中途に高原を現はすことがない。  
(2) 律動式 直進式と進歩の本質は等しいけれども、一上一下鋸齒状をなして發達するものである。

(3) 掉尾式 初めは進歩が認められない様であるが、後期に至つて急激な進歩をなすものである  
(4) 中段休止式 初め進歩が現はれ、中途に稍々長い停滞があつて、後期に至つて急激に進歩するものである。

(5) 停滞式 練習の初めから終りまで進歩の現れないもの。



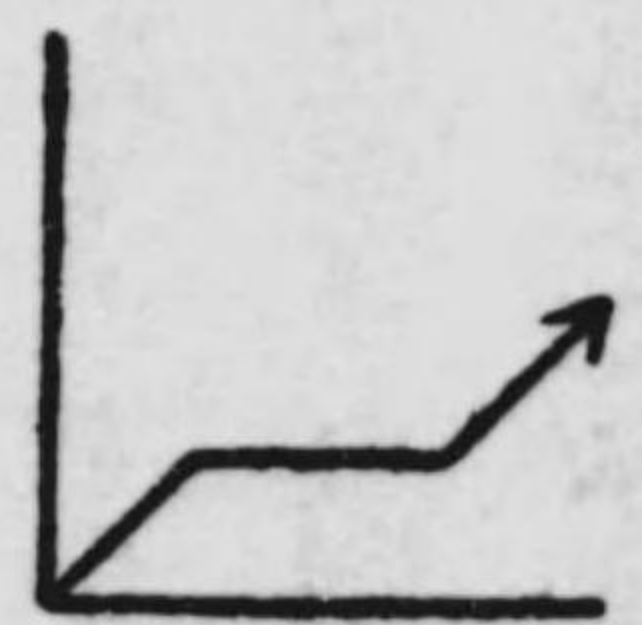
直進式



律動式



掉尾式



中段休止式



停滞式

2、練習に於て高原の現はるゝ原因を述べよ。

一、練習に於ける高原の意義

練習に於ける個人的型式は各々異なるけれども、一般的に見れば初め大に進歩するけれども、次第に度を減じて一時停滞するに至るものである。此の停滞する時機を高原と云ふ。高原を通過すれば又急速な進歩をするものである。

二、高原の現はるゝ原因

- (1) 作業が好奇心を以て行はれる時は、興味が伴ふので練習の分量も多く、従つて進歩も著しいが、好奇心が消滅するにつれて興味も失ひ、進歩も一時停滞するに至るのである。
- (2) 初めて作業にとりかかる時は、多くの場合は内容も簡単であるので、既有的知識技能を應用することが出来るから、進歩も著しいけれども、複雑な作業へと進めば、既有的の知能では不足をつけ、且つ一定の準備も要するので、一時停滞するに至る。
- (3) 練習を長期間繼續する場合に、有意注意を一様に持續することが出来ないで、高原を生ずることもある。

3、練習効果の轉移につきて知れる所を述べよ。



練習効果の轉移については、考察すべき二つの問題がある。(一)、一材料について練習した効果が他の材料にも及ぶか。例へば算術の練習が讀方や理科にも及ぶかと云ふこと。(二)、次は一作用に施した練習が他の作用にも効果を及ぼすか。例へば想像の練習が記憶に及ぼし、手の練習が足をも發達せしむるかと云ふことである。

之等の問題については從來から種々に論じられてゐるが、最近稱へられてゐる所を述べて見れば練習の効果は一定の範囲に限られてゐるので、算術の練習は讀方に波及しない。手の運動は足を發達せしめない。即ち練習は特殊であつて一般共通的でないといふのである。併し二つの材料・二つの作用の間に共通要素があるときは、全體としては異なつてゐても、部分的には一致するのであるから、従つて練習の効果も波及することになる。例へば無意味な綴字を暗記することによつて、記憶力を増して敷の記憶にも多少効果を及ぼし、馳足を練習すれば、野球の練習に於て馳足を用ふる部分に影響するの類である。

昔から「一事に通ずる者は萬事に通ず」との言葉がある。此の意味は練習の効果の萬能を現はす如くに思はれて來たかも知れぬが、其の妥當でない事は勿論であるけれども、一事に徹底的に通ずる爲めには、他事にも相當の了解が必要であり、一事の練習を徹底する間には、之と關係のある他の要素も練習されることとなるから、此の意味に於て幾等かの妥當味を有つ事と云へる。

### 第三章 疲 勞

#### 疲勞恢復の方法を述べよ。

##### 一、疲勞の意義

身體的活動精神的活動を一定時間繼續する時は、生活體に二種の變化が起り、主觀的には元氣が消耗して一種の不快を覚え、客觀的には作業の質・量共に低下する。此の状態を疲勞と云ふ。

二種の變化とは、一つは身體組織内老廢物が蓄積することであり、他は血液中に一種の毒素が生ずることである。而して之れが爲めに神経細胞は縮小して作業は遂に量も質も低下するに至るのである。

##### 二、疲勞恢復の方法

疲勞には局部的のものと全身のものがある。局部的疲勞は休息によつても恢復することが出来るが、全身の場合は榮養分をとること、睡眠とによらなくては恢復しない。

(I) 休息 休息は局部的疲勞を恢復させる一手段である。併し時期と長さを考慮して行ふこと

が必要である。蓋し方法宜しきを得なかつたなら、注意の順應を失ひ、興奮を消沈せしめ、且つ休息中遊戯其他にて反つて疲勞し、結局無用有害に終ることがあるのである。

(2) 養分攝取 養分をとることによつて或程度の疲勞を恢復し得ることは、實驗の結果既に定説となつてゐるが、如何なる養食品が如何なる効果をもたらすかは、學者間の研究に屬することであるが、一般に砂糖湯・茶・少量のパン等は良好である。

(3) 睡眠 完全なる疲勞恢復は規律的の睡眠に依らなくてはならぬ。睡眠は疲勞恢復の手段たるばかりでなく、心身發達上極めて重要である。實驗の結果に依れば食事よりも重大であることがわかる。

(參考) 睡眠原因の學說

一、化學的原因說 身心の活動によつて生じた老廢物が、直接に神經細胞の活動を弱めて睡眠の原因をなす。又其の老廢物は血液の循環も制限し、大腦皮質への血液供給も減少し、それがために睡眠を起すものであるとするもの。

二、血液供給變化說 血液循環中樞が疲勞し、其れがために血液供給上に變化を起し、之れが原因となると稱へるもの。

三、組織變化說 疲勞のために神經細胞が收縮し、神經傳達路に障礙を受け、それがために睡眠を催すとするもの。

以上の中第一と第二との結合的見解に立つ説が最も有力である。

第六篇 餘論

一、個性とは何ぞや。(和歌山)

一、個性の意義

人は一面に於ては人一般であると同時に、他面に於ては特殊の在である。個性とは個人的特殊性を云ふのである。一個人が他の個人と區別せられるのは、此の個性が存在するからである。

二、個性の分類

個性を心理學的に見る時は、心理事實上の個人的特殊相である。此の意味から分類する時は、知性に對する相異と、情意生活に對する特殊型式とに分けることが出来る。前者を材能と云ひ、後者を氣質と云ふ。

(1) 材能

觀察的材能 || 直觀的想像と歸納的推理の強く働くもの。  
 發明的材能 || 構成的想像と歸納的推理の強く働くもの。  
 分析的材能 || 直觀的想像と演繹的推理の強く働くもの。  
 思辨的材能 || 構成的想像と演繹的推理の強く働くもの。

(2) 氣質

膽汁質 || 反應は強・速

粘液質 || 反應は弱・遅

神經質 || 反應は強・遅

多血質 || 反應は弱・速

2、左につきて知れることを記せ。「氣質」(東京)

一、氣質の意義

情緒を中心要素とする先天的素質を氣質と云ふ。性格も個性の一部をなすものであるが、これは後天影響によつて得た特質である。

氣質の分類は、ギリシヤのガレノスが人體中に含まれた血液・黄液・黒液・粘液の四種の液體が量的に相異なる所から、多血質・膽汁質・神經質・粘液質に分けたことに始まる。其の後ヴントは刺戟に對する反應の強弱・遲速を以て區別したが、名稱は從來のものを用ひた。

二、四氣質の特徴

多血質 刺戟に對する反應で急であつて且つ弱い。快の感情に秀で快活である。舉動は輕快であるが、忍耐力乏しく輕躁である。

膽汁質 反應は急で且つ強い。感じ易く把住は確實である。勇往果斷の氣象に富み、舉動も活潑で元氣に満ちてゐる。併し不快の感情に傾き憤怒し易い。

神經質 反應は遅いけれども強い。容易には感じないけれども、一旦感ずれば長く同一感情に支配される。且つ悲觀的な感情を長く持續することが多い。觀察は緻密で思考力に富み、一般に智力に秀でてゐる。

粘液質 反應は遅くて弱い。心情は冷靜であつて事に動かない。活氣熱心に乏しく舉動も緩慢である。

以上の何れにもつかないものを混合質とする。人の氣質は或る程度の混合質であるが、其の分量

の多少によつて或る質が著しく現れた場合に、前記の四氣質が區別されるのである。

3、遺傳に關する最近の説を述べよ。

一、遺傳の意義

遺傳とは親又は祖先の形・質が、子又は子孫に傳はることを云ふ。

二、最近の説

(1) 獲得性遺傳説

獲得性と云ふのは後天的經驗によつて得た形質である。ダーヴキンやラマルク等は獲得性は遺傳するものと認めた。

ワイズマンは所謂胚質連続説を稱へて反對した。即ち遺傳と云ふものは生殖細胞内の形質のみが傳はる。然るに獲得性は生殖細胞にまで變化を及ぼさないから遺傳は行はれないと云ふのである。

(2) 胚質連続説

生活體を構成してゐる細胞は、生殖細胞と生活細胞とから成る。男女兩性の生殖細胞が合體する時、親の生殖細胞中の生殖質は、一部は新生活體に變化し、一部はそのまゝ新生活體の生殖細胞となる。故に生殖質は永久に子孫に傳はる。之が有名なワイズマンの稱へた胚質連続説である。

## 六 論 理 學

### 第一篇 原 理 論

#### 第一章 思考の原理

1、論理學上思考の原理を説明せよ。

一、論理學の定義

論理學は思考の形式及び法則を研究し、正しき知識を得んが爲めに守るべき規範を論定する科學である。

二、思考の原理

思考の原理とは思考作用の根本的條件である。論理學上思考に關する一切の法則に互りて根本となるものである。即ち若しこれを許さないなら如何なる思考の法則も到底成立しない所の條件であ

る。この原理には次の四つがある。

(1)、同一律

凡ての物は其れ自身と同一であるとする法則であつて、「甲は甲である」と云ふ形式で現はされる即ち「彼も人なら我も人」と云ふ場合に、其の人と云ふ概念は同一である。彼と我とは異つてゐるとしても、人の人たる點に於ては同一であることを意味してゐる。若し人の人たる所以の同一點も常に變化するとせば、吾人の思考活動は不可能となる。故に一切の思考活動を許すなら此の法則も認めなくてはならぬ。同一律は凡ての肯定斷定の基礎をなすものである。

(2)、矛盾律

凡ての事物は其れ自身と矛盾するものと同一であることが出来ないとする原理で「甲は非甲にあらう」と云ふ形式で現はされる。此の原理の意味は一方で肯定すると同時に、他方で否定することは出来ないことを現はしてゐる。例へば「氷は冷し」と云ふと同時に「氷は冷からず」と云ふことは出来ないのである。この原理は否定斷定の基礎となるものである。

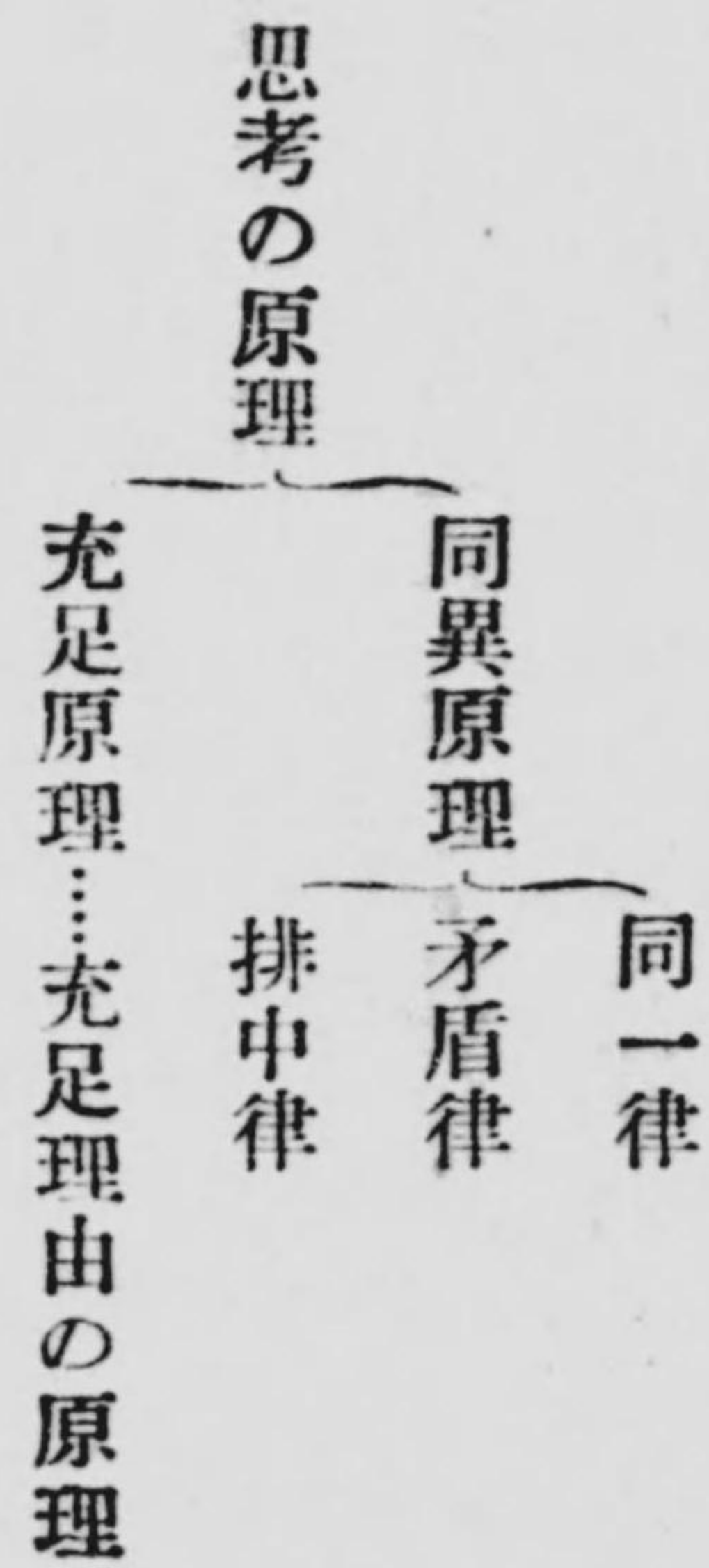
(3)、排中律(不容間位律)

同一事につきては之を肯定するか否定するかで、其の外の第三者であることを許さぬとする原理

である。「甲は乙なるか、非乙なるかなり」と云ふ形式で現はされる。割へば線は直線であるか又は直線でないかであつて、其の他のものであることを認むることが出来ない。排中律は選言斷定の基礎をなすのである。

(4)、充足理由の原理

一切の存在せるものは、充分な理由があつて存在してゐる事を言ひ現はしたものである。其の形式は「理由を立てれば歸結は立てられ、歸結を破れば理由は破られる」と云ふことで現はされ、假言推理の基礎をなすのである。



第二章 概念

## 1、概念の發達過程を述べよ。

## 一、概念の意義

概念とは或る種の事物の共通點を總括し、反面には特殊點を除外して成る所の普遍的代表的觀念である。

## 二、概念の構成

概念は觀念から比較・抽象・總括・命名の四過程を経て構成されるものである。概念と概念とが比較される場合も、右の四過程を経て更らに抽象的な概念が構成される。概念を言語で言ひ現はしたものを名辭と云ふ。

## 三、概念の發達過程

凡ての事物は全然同一でないと同時に全然異なるものでもない。吾人が日常の經驗を反復する間には、共通點は相異點に比して經驗の度數が多いことになる。従つて觀念を再生する場合も共通點の方が容易である。斯くの如くにして共通點は結合され、遂に獨立の觀念となる。之れが心理的觀念である。心理的觀念は無意識の間に行はれるけれども思考作用の發達につれて、論理的な比較・抽象・總括・命名等の作用をまつて、論理的觀念へと進むのである。概念の發達は全體に於て心理的

から論理的へと發達する。

## 1、概念の周延不周延の意義の例を擧げて説明せよ。(島根)

## 一、概念の意義

省略(前問題参照)

## 二、概念の内包と外延

内包とは概念の意味してゐる本質的屬性の全部を云ふ。外延とは概念によつて包括されてゐる範圍を云ふ。例へば、三角形と云ふ概念について云へば、其の内包は三角形の持つて居る屬性即ち三邊・三角・平面形・内角の和が二直角であること等であり、外延は三角と云ふ概念によつて表される範圍、即ち正三角形・直角三角形・二等邊三角形・不等邊三角形等の種類を指す事になる。

## 三、周延・不周延

或る斷定の主張が概念の外延全部を表す時は、其概念を周延せりと云ひ、單に一部を表すときは不周延なりと云ふ。例へば、「凡ての三角形は三つの邊を有す」斷定に於て主概念の全部が賓概念の範圍内に包攝されることを示す。此の場合に於て主概念は三角形全部の範圍に互つて主張されてゐるが、賓概念は其の一部分の關係を云ひ表はすに過ぎない。故に主概念は周延されてゐるが、賓概

念は不周延である。

### 第三章 判断

#### 1、判断の種類を擧げて説明せよ。

##### 一、判断の意義

判断とは概念の屬性を分析又は総合して、其の關係につきて何等かの立言をすることである。

##### 二、判断の種類

#### (1) カントの分類

全稱 Ⅱ「凡ての甲は乙なり」凡ての犬は動物なり」

分量 特稱 Ⅱ「或る甲は乙なり」ある犬は土佐犬なり」

單稱 Ⅱ「甲は乙なり」日本の首府は東京なり」主概念が單純概念の場合

肯定 Ⅱ「甲は乙なり」凡ての犬は動物なり」

性質 否定 Ⅱ「甲は乙にあらず」鯨は魚にあらず」

不定 Ⅱ「甲は非乙なり」鯨は魚にあらざるものなり」

定言 Ⅱ「甲は乙なり」「甲は乙ならず」犬は動物なり」「犬は鳥ならず」

關係 假言 Ⅱ「丙が丁なら甲は乙なり」「温度高ければ寒暖計上昇す」

選言 Ⅱ「甲は乙なるか丙なるかなり」「三角形は等邊か不等邊かなり」

實然 Ⅱ「甲は乙なり」「火は熱し」

様式 蓋然 Ⅱ「甲は乙ならん」「明日は雨降るならん」

必然 Ⅱ「甲は必ず乙なり」「人は必ず死す」

#### (2) 形式論理學上の分類

カントの分類に於ける分量及び性質上よりの分類から、全稱・特稱・肯定・否定の四つをとり、之を組合せて次の四種とした。

全稱肯定判断 記號(A) 「甲は乙なり」凡ての犬は動物なり」

全稱否定判断 記號(E) 「凡ての甲は乙にあらず」凡ての犬は鳥にならず」

特稱肯定判断 記號(I) 「或る甲は乙なり」或る人は學者なり」

特稱否定判断 記號(O) 「或る甲は乙にあらず」或る人は學者にあらず」

其他定言・假言・選言の分類はそのまゝとり、様式の分類に於ては實然のみをとり、他はあまり必

要がないと見てとらない。

#### 第四章 直接推理

1、直接推理に於ける判断の對當關係の種類を列挙し、且つその推理上の注意を説明せよ。(新潟)

##### 一、直接推理の意義

推理とは已知の断定から新断定と構成する作用である。而して直接推理とは一個の已知断定から新断定を構成するものである。

##### 二、對當關係の種類及注意

對當とは判断の主概念賓概念が同一であつて、而も其の質或は量又は質量共に異つてゐる他の命題に對する眞偽關係を云ふのである。

##### (1) 矛盾對當

量及び質を共に異にしてゐる所の A と O・E と I との關係であつて、一方が眞なら他は偽、一方

が偽なら他は眞であつて、決して兩立することはない。

##### (2) 反對對當

質のみを異にする全稱断定 A と E との關係であつて、一方が眞なら他は偽であるが、一方が偽である場合は他は眞偽不明である。二つが同時に偽なることはあるが、同時に眞なることはあり得ない。

##### (3) 小反對の對當

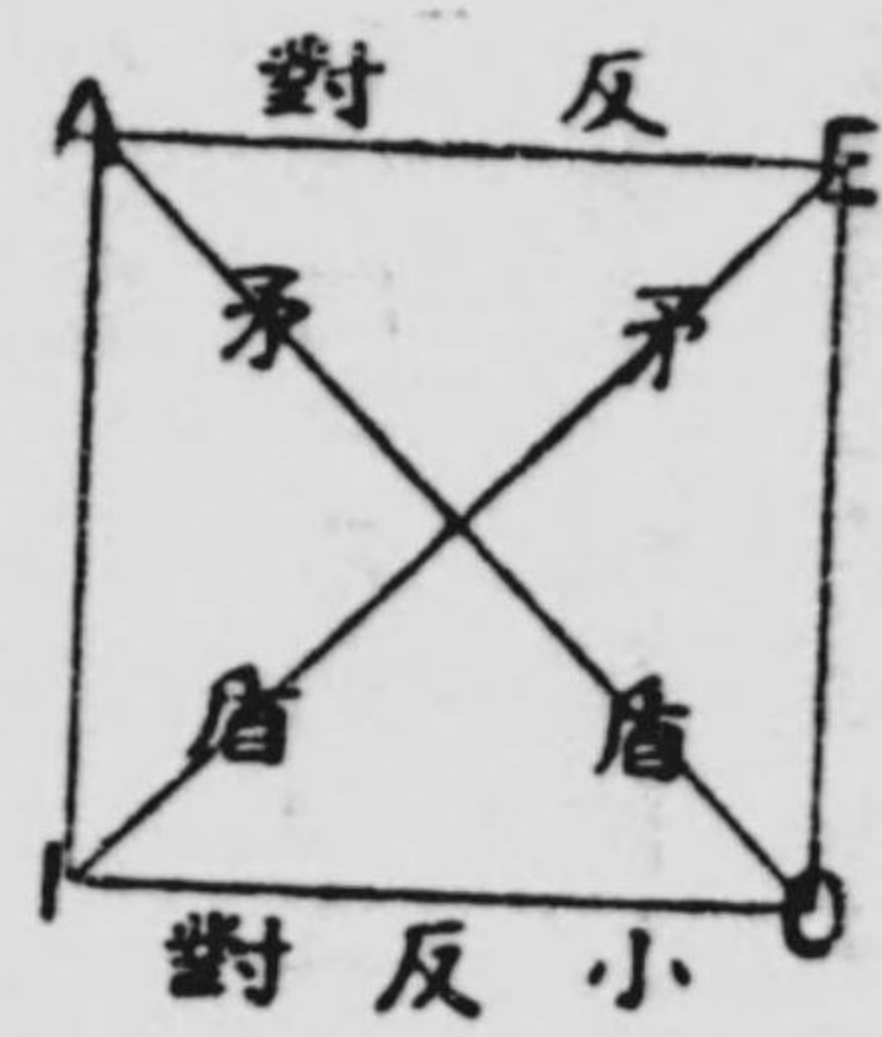
質のみを異にする特稱断定 I と O との關係であつて、一方偽なら他は必ず眞であるが、一方が眞であつても他の眞偽を決することが出来ない。二つながら眞であることはあり得るが、同時に偽たることはない。

##### (4) 大小對當

量のみを異にする所の A と I、E と O との關係であつて、若し全稱断定が眞なら之に對する特稱断定も眞であり、特稱断定が偽なら之に對する同稱断定も偽である。併し全稱断定が偽であつても特稱断定は眞偽不明であり、特稱断定の眞であることによつても全稱断定の眞偽を決することが出来ないとするのである。



今之をアリストステレースの對當方陣で以て示せば次の通りである。



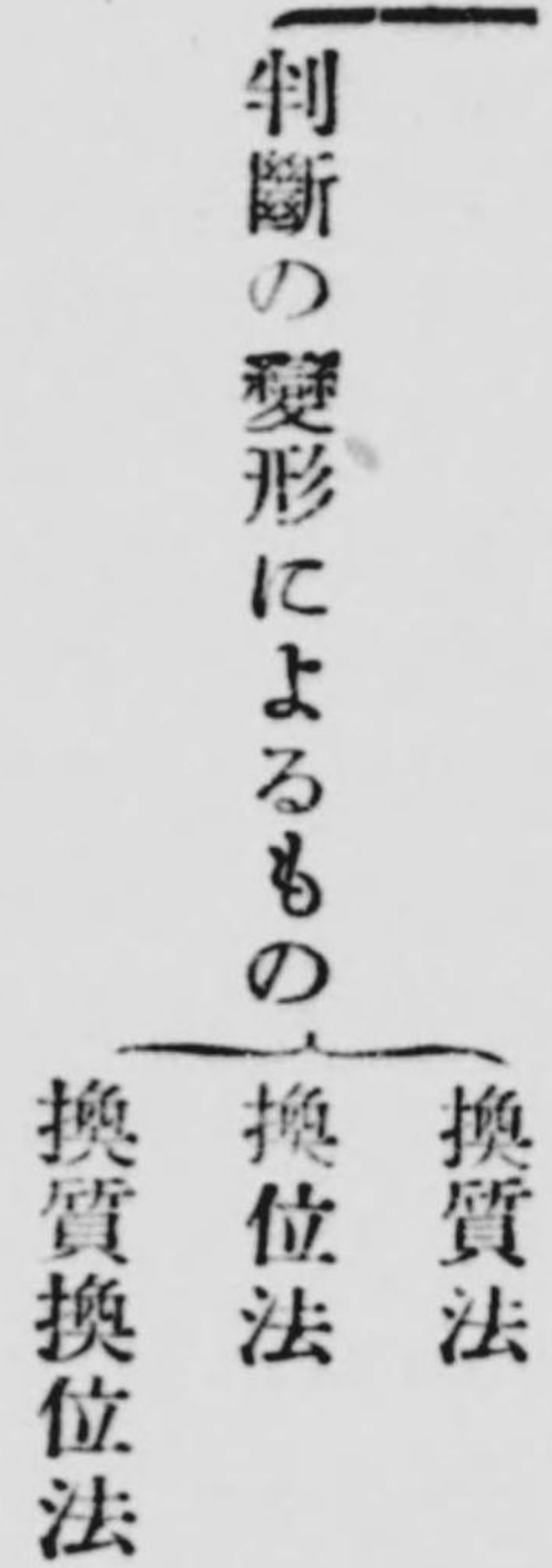
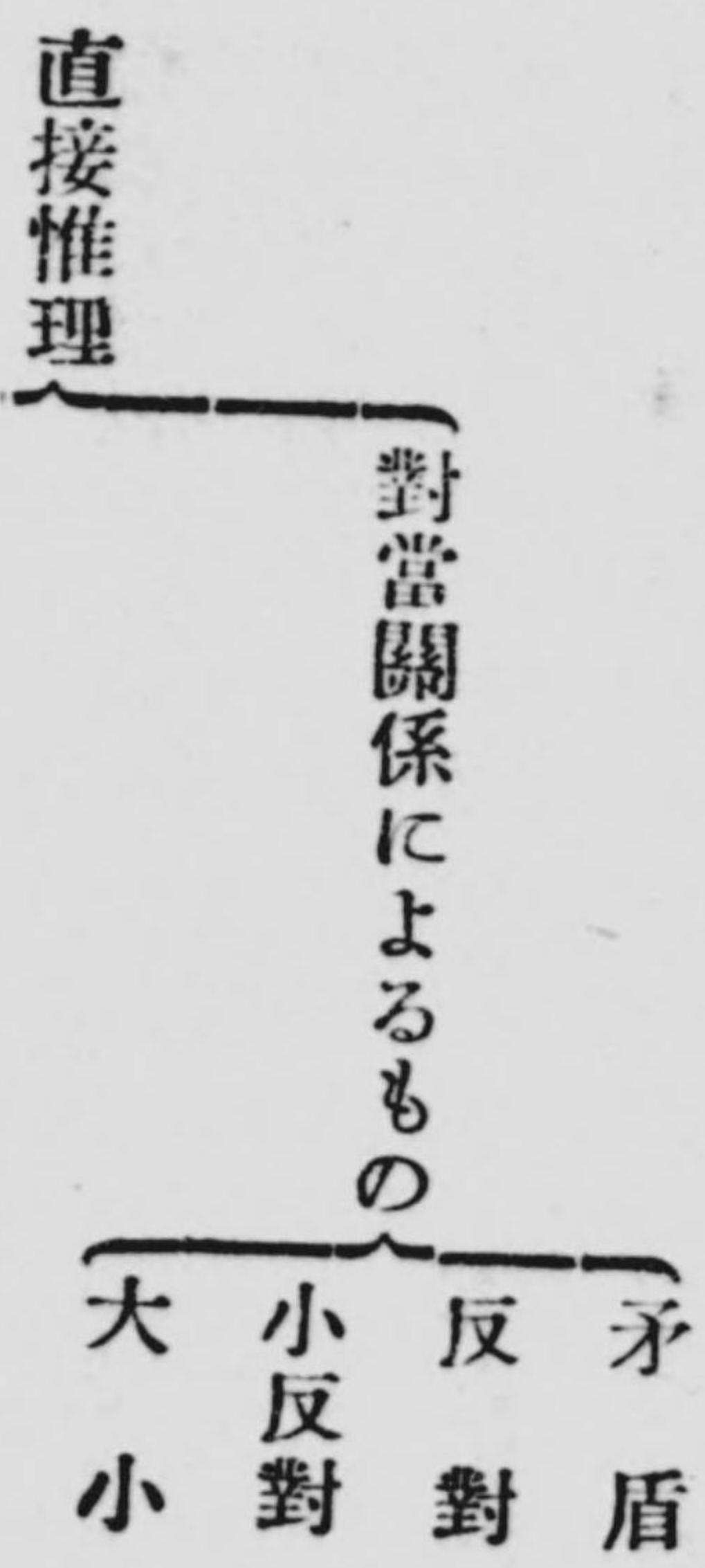
(類題) 左の各項につき知る所を起せ。「矛盾」(青森)

2、直接推理の種類につきて例を擧げて説明せよ。(和歌山)

一、直接推理の意義

一つの已知斷から新斷定と構成するものを直接推理と云ふ。

二、種類



(一) 對當關係によるもの(前問題参照)

(二) 判斷の變形によるもの

(1) 換質法

換質とは一つの判斷から性質だけを變へて、原意を失はない所の新判斷を得ることである。此の方法を行ふには、原判斷の質を換へ、賓位の概念を矛盾概念に置き換へればよいのである。例へば「社會は有機體なり」を「社會は無體にあらざり」とするが如きである。

(2) 換位法

換位法とは一つの判斷の主位と賓位との位置を換へて新判斷を得るものである。此の方法を行ふときは、原の判斷の不周延な概念を新判斷で周延してはならぬ。併し原判斷で周延であるものを新判斷で不周延にするのは差支ない。

換位法には單純換位と限量換位とある。前者は新判斷が原判斷と分量を同じくするとき。後者は

原判斷で周延した概念を新判斷で不周延となる場合を云ふのである。

例「凡ての男教員は教師である」(A)を換位すれば「或る教師は男教員である」(I)となり、限量換位となる。「東京は日本の首府である」(A)は「日本の首府は東京である」(A)と換位することが出来て、單純換位である。(O)は如何なる方法を以てしても換位することが出来ぬ。

(3) 換質換位法

換質換位は換質法と換位法とを併せ行ふものである。例へば「或る貨幣は金貨でない」を換質して「或る貨幣は金貨にあらざるものである」となし、之を更に換位して「或る金貨にあらざるものは貨幣である」とするが如きである。此の方法は(I)には適用することが出来ぬ。即ち(I)は換質すれば(O)となつて、換位することが出来なくなるからである。

Aは限量換位、換質換位

Eは單純換位、換質換位

Iは單純換位のみ

Oは換質換位のみ

第五章 間接推理

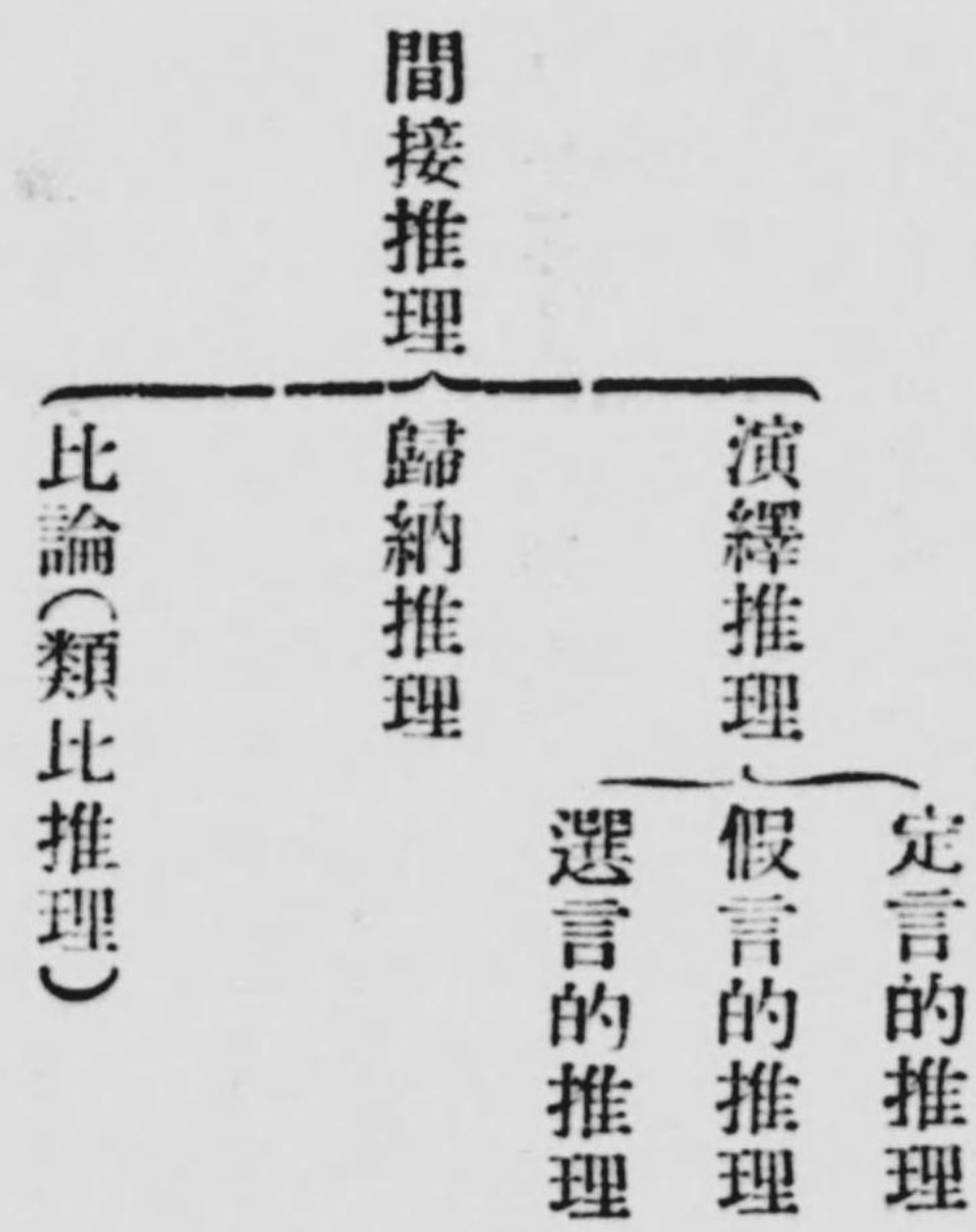
第一節 間接推理の意義

一、間接推理の意義及種類を示せ。

一、間接推理の意義

二個以上の已知の斷定が基礎となりて、一個の新斷定を構成するものを間接推理と云ふ。

二、間接推理の種類



第二節 定言的三段論法

1、定言的三段論法の公理及び規則を記せ。

一、三段論法の公理

第一 甲乙兩概念が共に同一な媒概念丙に一致する時は、同一の原理により甲乙兩概念は互に一致する。

第二 甲乙兩概念中一方は同一な媒概念丙に一致し、他方は一致しない時は、矛盾の原理により甲乙兩概念は互に一致しない。

第三 甲乙兩概念が共に同一な媒概念丙に一致しない時は、甲乙兩概念は互に一致することがあり、又一致しない事もあつて一定しない。

二、三段論法の規則

第一則 定言的三段論法に於ては、三個より多くの概念があつてはならぬ。若し之を犯して四個ある場合は四個概念の虚偽と云ふ。

第二則 媒概念は必ず一回は周延せられなければならぬ。之を犯すものを媒概念不周延の虚偽と云ふ。

云ふ。

第三則 前提に於て周延されない概念を結論に於て周延することは出来ぬ。之を犯すものを大概念(又は小概念)不常周延の虚偽と云ふ。

第四則 兩前提共に否定なら結論を得ることが出来ぬ。之を犯すものを兩否定の虚偽と云ふ。

第五則 前提の一方が否定なら結論亦否定、兩前提共に肯定なら結論亦肯定である。

第六則 兩前提共に特稱なら結論を得ることは出来ぬ。

第七則 兩前提の一方が特稱なら結論亦特殊である。

2、三段論法の法則「兩前提共に特稱である時は斷案に達する能はず」を説明せよ。

兩前提共に特稱である場合は、I O · I I · O O の三種である。今其の一々につきて斷案を下し得ない事を説明しよう。

I 不周——不周

O 不周——周

右について見るに媒概念は前提に於て少くとも一度は周延されなければならぬ。然るに前提に於て周延された概念は一つしかないので、之れは媒概念であらねばならぬ。又第五前によつて結論は

否定でなくてはならぬ。否定断定は周延されたものでなくてはならぬのであるが、前提中には周延された概念は一つもないことになるから、此の推論は成立しないことになる。

I 不周——不周  
I 不周——不周

これは周延された概念が一つもないので、媒概念として周延された概念を得ることが出来ない。故に第二則にふれて結論に達することが出来ない。

O 不周——不周  
O 不周——不周

これは周延、不周延の関係ではなく、第四則によつて兩前提共に否定なら結論を得ない。OとOは共に否定断定であるから結論を得られない。

3、兩前提の一角が特稱なる場合は、斷案は特稱ならざるべからざることをオイ  
の圖式の助によりて説明せよ。(熊本)

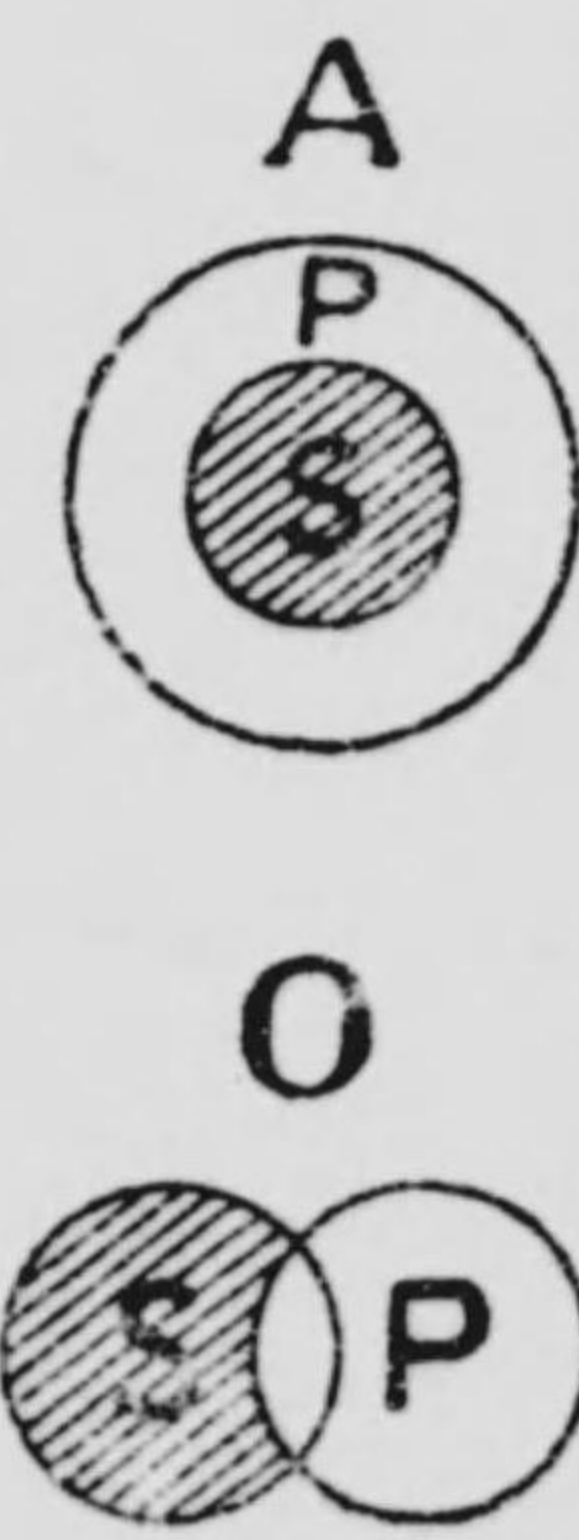
兩前提の一角が特稱である場合は、A I・A O・E I・E Oの四種である。之を其の各々につき特稱ならざるべからざることを證明しよう。

A 周 延——不周延  
I 不周延——不周延



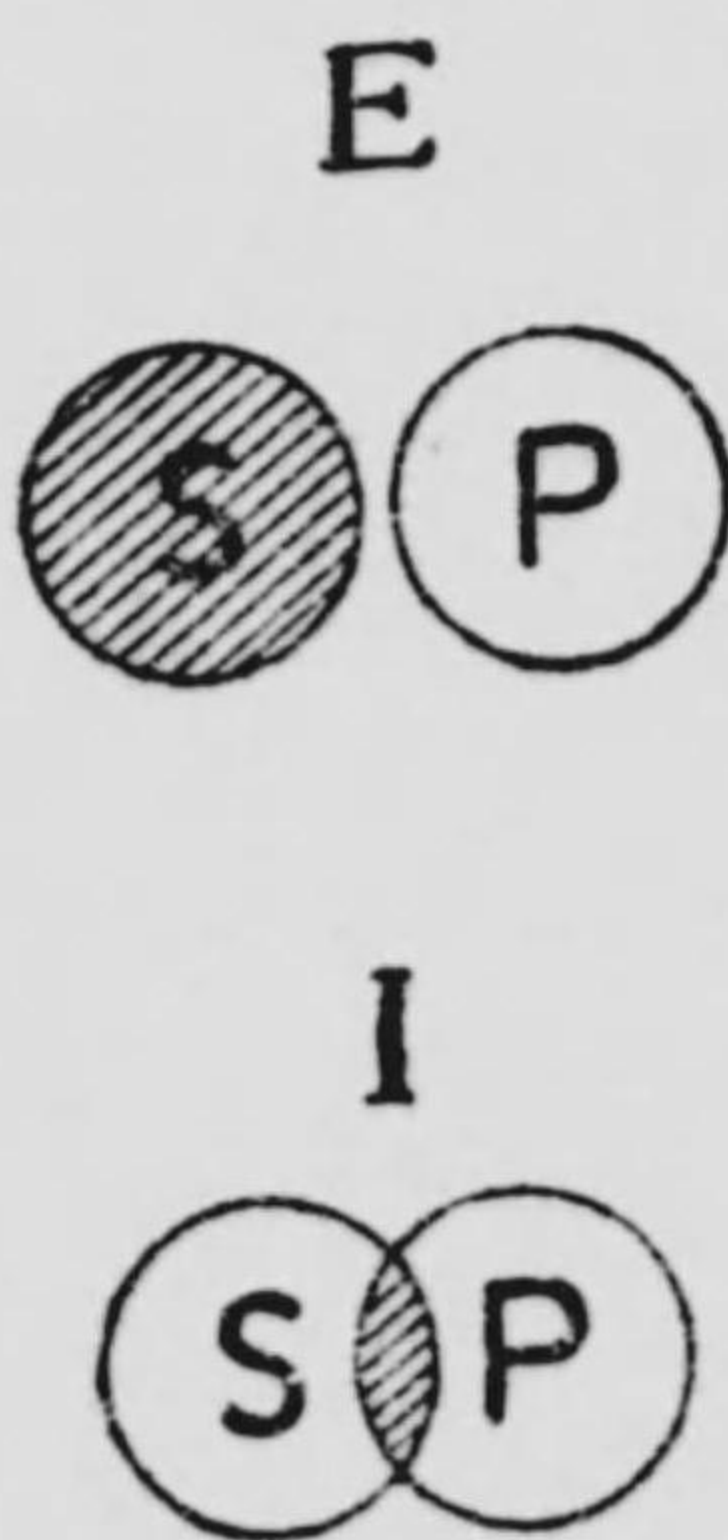
右に於て周延された概念は形式的にはAの場合のSのみである。而して第二則により前提の中に媒概念は一度は周延されなければならぬから、A命題のは媒概念でなくてはならぬ。然るに他は何れも不周延の概念であるから、結論の主位も特稱即ち不周延でなくてはならぬ。

A 周 延——不周延  
O 不周延——周 延



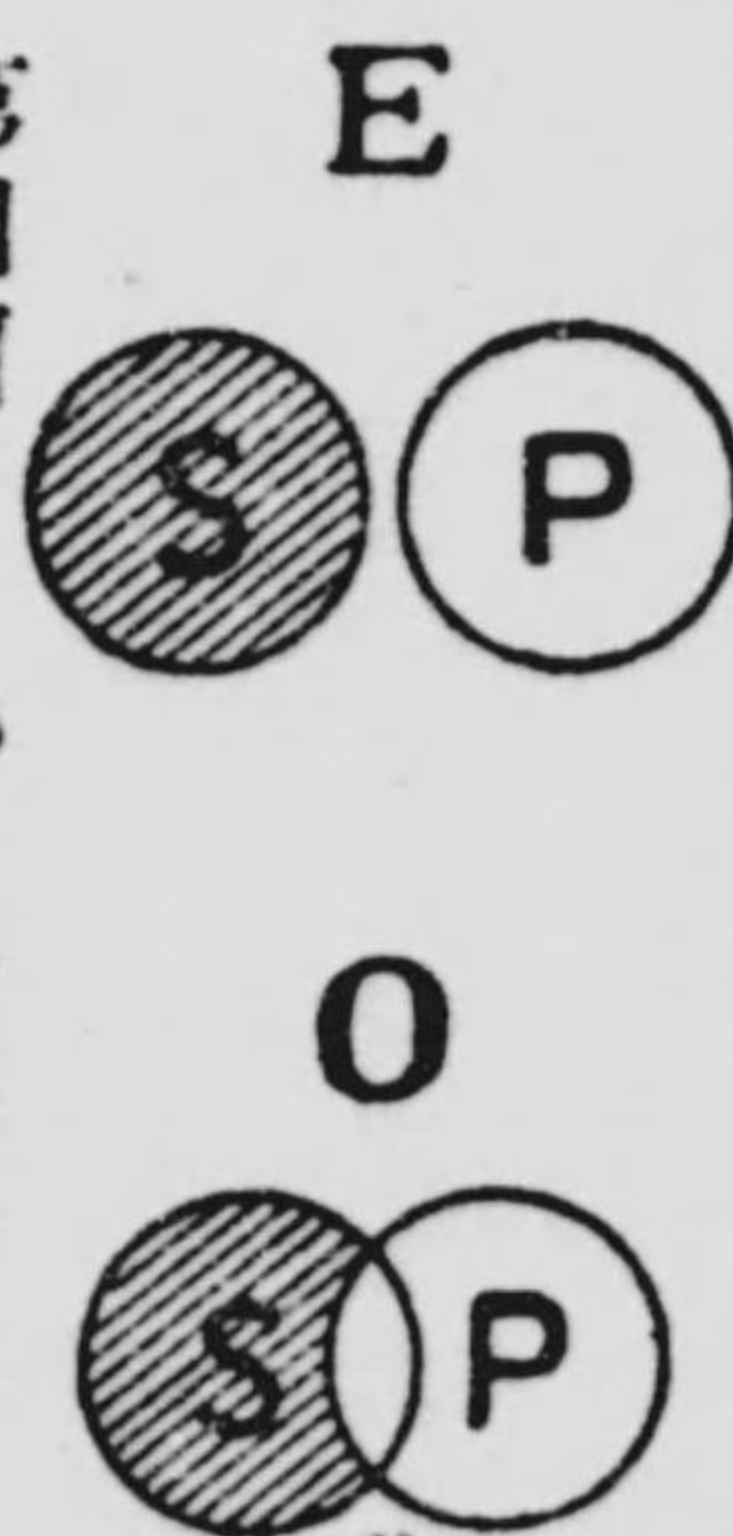
此の場合は周延されたる概念が、A命題のSとO命題のPとである。その中一つは媒概念でなくてはならぬ。然るに第五則に依り前提の一つが否定である時は結論亦否定でなくてはならぬ。否定断定を構成する概念は周延されたものでなくてはならぬから、前提中に於て周延された概念の一つは結論の賓位でなくてはならぬ。残る所は不周延の概念のみであるから、結論の主位は不周延の概念であつて従つて特稱である。

E 周 延——周 延  
I 不周延——不周延



此の場合も前提中周延された概念は、E命題の主位と賓位との二つだけであるから、一つは媒概念として、他の一つは第五則により結論の賓位として必要なる故、残るものは不周延概念のみとなり従つて之れが結論の主位をなすこととなり、特稱たらざるべからざるに至るのである。

E 周延——周延  
O 不周延——周延



此の場合は兩前提共否定であるから、第四則によつて結論を得ることが出来ぬ。

4、前提の二が否定である時は結論亦否定、兩前提共に肯定である時は結論亦肯定であることを證明せよ。

前提の一つが否定であることは、其の前提は媒概念に一致しないことである。反對に他の肯定概念は媒概念に一致することになる、三段論法の公理第二に依り、一方は媒概念に一致し他は一致しないから、矛盾の原理によつて甲乙兩概念は互に一致しない。従つて結論は否定である。

前提が二つとも肯定であることは、甲乙兩概念が同一な媒概念丙に一致することである。三段論法の公理第一により、結論に於ても互に一致することになる。故に肯定となるのである。

### 第三節 假言的三段論法

1、假言的三段論法とは何ぞや。

一、假言的三段論法の意義

假言斷定を前提とする所の三段論法を假言的三段論法と云ふ。

二、假言的三段論法の種類

(1) 混合假言推理

混合假言推理とは大前提は假言斷定で、小前提に於て其の前件を肯定するか、或は後件を否定するかに依つて結論を得る所の定言斷定である。

其の形式は

若しMがNならばCはDなり。(又はCはDならず)

MはNなり。

故にCはDなり。(又はCはDならず)……(前件肯定)

若しAがBならばMはNなり。(又はMはNならず)

MはNならず。(又はMはNなり)

故にAはBならず……(後件否定)

(2) 純粹假言推理

前提共に假言斷定からなつてゐるものを純粹假言推理と云ふ。其の形式は次の如くである。

若しMがNならCはDなり。(又はCはDならず)

若しAがBならばMはNなり。

故にAがBならばCはDなり。(又はCはDならず)

純粹假言推理は思想の進行が定言推理に等しい。従つて各々の法則も定言推理の法則に等しい。

第四節 選言的三段論法

1、假言的に三段論法を説明せよ。

一、選言推理の意義

選言斷定を基礎として成る推理を選言推理と云ふ。即ち大前提は選言斷定で、小前提は大前提の選言肢の孰れかを肯定するか、又は否定するかによつて結論を導き出すものである。

二、選言推理の條件

選言推理の大前提たるべき選言斷定は、必ず次の二條件を具へてゐなくてはならぬ。

(1) 選言肢は主位の凡ての場合を擧げ盡してゐなくてはならぬ。

(2) 選言肢は外延上に於て互に相排斥して決して交叉してはならぬ。

三、選言推理の形式

既に大前提に於ける選言肢は相排斥するから、小前提に於て此の中の一肢を肯定すれば他は否定され、一肢を否定すれば他は肯定されるのである。其の一般的形式は次の通りである。

PはAなるかBなるかなり。

PはAなり。(又はPはBなり)

故にPはBならず。(又はPはAならず)

PはAなるかBなるかなり。

PはAならず。(又はPはBならず)

故にPはBなり。(又はPはAなり)

以上は選言肢が二個の場合であるが、若し三個以上あつても、之から類推することが出来る。今其の形式を示す。

PはAなるか、Bなるか、Cなるかなり。  
PはAなり。

故にPはBにあらず、Cにもあらず。

PはAなるか、Bなるか、Cなるかなり。

PはAならず。

故にPはBなるか、Cなるかなり。

(参考) 定言・假言・選言断定相互の關係

定言断定・假言断定・選言断定の三者は、形式は異つてゐるが畢竟同一原理に基づきて成立するものである。即ち假言断定は定言断定に變形し得るものであり、定言断定も亦假言断定に變形し得る故に此等の断定には定言的要素と假言的要素とが共に存在するものと見ることが出来る。又選言断定は假言断定の特殊な形と見ることが出来るから、此等三断定は形式こそ異なつてゐるが、根本的の性質に於て明瞭に區別し得られるものでない。(拙著心理學論理學精義より)

第五節 チレンマ

1、チレンマの意義及び一般的形式を擧げよ。

一、チレンマの意義

大前提は二個以上の假言断定であつて、小前提は大前提の前提全部を選言的に肯定するか、後件全部を選言的に否定するかによつて結論に達するものをチレンマと云ふ。或は二重體・兩刀論法・雙肢式等とも云ふ。

二、チレンマの一般的形式

甲なれば乙なり、丙なれば乙なり。

甲なるか、丙なるかなり。

故に乙なり。

甲なれば乙なり、甲なれば丙なり。

乙ならざるか、丙ならざるかなり。

故に甲ならず。

甲なれば乙なり、丙なれば丁なり。

甲なるか、丙なるかなり。

故に乙なるか、丁なるかなり。

簡單構成チレンマ

簡單破壊チレンマ

複雜構成チレンマ

甲ならば乙なり、丙なれば丁なり。  
乙ならざるか、丁ならざるかなり。  
故に甲ならざるか、丙ならざるかなり。

複雑破壊チレンマ

三、チレンマの規則

- (1) 假言斷定の前件と後件との關係は必然的の性質をもつものでなくてはならぬ。
- (2) 小前提の選言的事項は完全に選言的性質をもつてゐること。
- (3) 小前提に於ては假言斷定の前件を肯定するか後件を否定するかでなくてはならぬ。

第六節 不規則雅理

1、前進的連鎖法にありては最初の前提のみ特稱にして最後前提のみ否定なるを得べし其の理由如何。(奈良)

一、前進的連鎖法

二個以上の三段論法が連結されて、最後の結論を除く外は、一々の三段論法の結論は省略されてゐる所の、複雑なる三段論法を連鎖法と云ふ。而して一前提の賓位を次ぎの前提の主位とし、最初

の前提の主位を以て結論の主位とする連鎖法を前進的連鎖法、アリストテレスの連鎖式と云ふ。其の形式及例は次の如くである。

甲は乙なり 西郷隆盛は鹿兒島の人なり

乙は丙なり 鹿兒島人は九州の人なり

丙は丁なり 九州の人は日本人なり

丁は戊なり 日本人は東洋人なり

故に甲は戊なり 故に西郷隆盛は東洋人なり

二、最初的前提のみ特稱たり得ること

最初的前提以外的前提を特稱とすれば、媒概念は肯定斷定の賓位と、特稱斷定の主位とを占むることとなり、前提中に於て一回も周延されないから、媒概念不周延の虚偽となる。

三、最後的前提のみ否定たり得ること

最後的前提以外的前提を否定たらしむれば、省略された結論も否定とならねばならぬので、従つて大概概念不周延の虚偽となる。

2、逆退的連鎖法に於ては、最初的前提のみ否定であつて、最後的前提のみ特稱で



あり得ることを説明せよ。

一、逆退的連鎖法

一前提の主位を次ぎの前提の賓位とし、最後の前提の主位を以て結論の主位とする連鎖法を逆退的連鎖法(又はゴクレニアン連鎖法)と云ふ。

甲は乙なり 日本人は東洋人なり

丙は甲なり 九州の人は日本人なり

丁は丙なり 鹿兒島の人は九州の人なり

戊は丁なり 西郷隆盛は鹿兒島の人なり

故に戊は乙なり 故に西郷隆盛は東洋人なり

二、最初的前提のみ否定たり得ること

最初的前提以外の前提は、何れも小前提にあたる。而して第一格の形式になつてゐるので、最初的前提以外の前提を否定とすれば、大概念不周延の虚偽となる。

三、最後の前提のみ特稱たり得ること

最後の前提以外の前提を特稱とすれば、媒概念は肯定断定の賓位と特稱断定の主位を占むること

になつて、媒概念不周延の虚偽となる。

第六章 歸納推理

一、完全歸納理とは如何。(埼玉)

一、歸納推理の意義。

歸納推理とは特殊の場合を前提として、一般の眞理を推定する間接推理である。演繹推理が一般の眞理から、特殊の場合を推定するのと相對立するものである。

二、歸納推理の形式

ABCD……はPなり。 金銀銅鐵……は熱によりて膨脹す。

ABCD……はSなり。 金銀銅鐵——は金屬なり。

故に凡てのSはPなり。 故に凡ての金屬は熱によりて膨脹す。

三、完全歸納推理

歸納推理は三段論法の第三格の形式に相當するものであるが、三段論法に於ては一つの一般的眞理に基きて、特殊の判断を下したのであるが、歸納法では多くの事實を示して全稱的判断を下す點

が異つてゐるのである。而して歸納推理に於て若し一類をなす一切の事例を、もれなく完全に擧げ盡し得た場合には、之を完全歸納推理と云ふのである。

完全歸納推理は、單に既知の事實を枚擧し、之を概括したに過ぎないもので、何等未知の事實を推定し得たものではない。併し多くの事實を約説して、思考の勞力を節約する所に効果がある。

(補説) 眞正歸納推理

眞正歸納推理は「宇宙凡ての事物は一定の秩序の下に在り、同一の原因には同一の結果がある。」と云ふ大假定を基礎として觀察又は實驗した多くの事實から、一般法則を推定して、其の法則は未だ觀察も實驗もしない他の同類事實にも適用し得る事を立言するものである。故に眞正歸納推理は其の矛盾對當たる特稱斷定が立證されない限り、一般法則として認められるのである。

(參考) 歸納的飛躍

吾々の經驗する範圍に於ては、特殊的部分的事例が一般的全體をつくす所謂完全歸納推理を行ひうることは例外であつて、人爲的に勝手な制限を付けるのでなければ、如何に多くの特殊的部分的事例を集めたとしてそれが全體をつくすことは出來ぬ。従つて歸納推理は大抵の場合不完全歸納推理である。此推理に於て吾々が部分より全體に到達するには一の飛躍をなして、限られたる經驗の範

圍を超越せねばならぬ。この飛躍を歸納的飛躍といふ。如何にしてかゝる飛躍が是認せらるべきかは論理學者の問題で、ミルの如きは「自然の齊一性」によつて説明してゐる。(哲學辭典より)

## 第七章 類比推理

### 1、類比推理(比論)の例及び其の論式を記せ。(北海道)

#### 一、類比推理の意義

或特殊の場合から他の未知の特殊の場合に推及するものを類比推理(類推・比論)と云ふ。即ち一方に持つてゐる幾多の性質が、他方の性質と等しい時は、之を基礎として一方に眞なるものは他方も眞であらうと推定するものである。

#### 二、例及び論式

MはPなり。

SはA・B・C等の點に於てMに等し。

故にSはPなるべし。

地球には動物がある。

火星は自轉・公轉・空氣・水等を有する點に於て地球に等しい。  
故に火星にも動物がゐるであらう。

三、類比推理の根據

類比推理の結論は類似性の多少によつて確實性が決定するのではない。唯だ一つの性質が等しい事から正しい推論を爲し得ることあれば、又類似性の多くある時でも結論が正しくないこともある即ち確實の度は次の二條件による。

- (1) 相等しい性質A・B・C等と、結論に現はれたるPとが内面必然關係がなくてはならぬ。
- (2) 類推を施す二個の事物に、類推を打破する様な他の性質・事情を持たないこと。

【類題】 比論(類推法)の意義を述べ且比論の形式並に根據となるべき條件を述べよ。(島根)

## 第二篇 方法論

### 第一章 知識の發見

1、ミルの歸納的方法を述べよ。

凡百の現象は甚だ複雑であつて、充分精密に觀察し實驗し分析して研究しなければ、因果の關係を發見確定することは出来ぬ。此の方法中最も完全に近く、比較的精細なものはデヨンシユチュワ  
Iト・ミルの定めた所の、所謂歸納的方法である。

#### (一) 契合法

此の方法は研究しようとする現象の存する幾多の例を集め、其の原因と目されるものが常に其の現象を結果として伴なつてゐることを見る時、兩者の間に因果關係があることを知るのである。次に其の形式と實例とを示すこととする。

ABC.....abc
ADE.....ade
AFG.....afg
∴A.....a

例 氷が水となる場合、其他の固體が液體と變ずる場合(a)に、常に不變なる事情(A)たる加熱すると云ふことがある時は、此の加熱が固體を液體たらしむる原因であるとするのである。

#### (二) 差異法

一個の現象があつて、其の中に原因又は結果に目するものが存在する時、其の原因と目するもののみを除去する時、結果と目するものも消滅する時は、兩者の間に因果の關係があることを認める。

例 排氣鐘中に動物を入れ、空氣を除去して動物が死ぬ時は、空氣は動物の生活に欠くことの出来ないものであることを知る。

ABC.....abc  
BC.....bc  
∴A.....a

(三) 契合差異法

此の方法は其の名の示す如く、契合法と差異法とを併用して、兩者の欠點を補ひ正しき結論を得んとするものである。

ABC.....abc  
ADE.....ade  
AFG.....afg  
PQ.....pq  
RS.....rs  
TU.....tu  
∴A.....a

例 醫者が患者に對して、某藥品を使用した幾多の患者は悉く早く全快し、使用しなかつた患者は悉く遅かつたとすれば、其の全快の早かつた原因は、某藥品にあると推定するのである。

(四) 共變法

此の方法は一現象が變化する毎に、他の現象も之に伴つて化變する時、此の兩現象間に因果關係があることを推定するのである。

ABC.....abc  
A'BC.....a'bc  
A''BC.....a''bc  
∴A.....a

例 溫度は寒暖計の水銀の昇降を伴つて變化する。故に溫度と水銀の昇降との間に因果關係があることを推定するのである。

(五) 剩餘法

或る現象と或る事情との間に、既に因果關係が知られてゐる時、其の分つてゐる部分を除去して後に残つた事情と残つた現象との間に因果の關係があることを推定するのである。

ABC.....abc  
B.....b  
C.....c  
∴A.....a

例 物體の重量を測定する時、始め風袋と共に計り、次に風袋の重量を引き去らつて物體の重量を知る如きである。

2、假説の條件を示せ。

一、假説の意義

吾人の知識を経織的體系的たらしめんとする根本的要求より、既に觀察・實驗によつて認められた事實を、更に説明せんが爲めに假りに定めたものを假説と云ふ。即ち既得の知的組織を基礎とし

て想定されたものである。

## 二、假説の條件

- (1) 假説は事實に基づいて立てられなくてはならぬ。然らざるものは空想である。
- (2) 假説は事實を説明せんが爲めに設けたものであるから、それによく適合してゐなくてはならぬ。即ち説明せんとする事實の範囲より狭くても廣すぎても共に悪い。
- (3) 已に證明された他の法則と相反するものであつてはならぬ。
- (4) 假説は已定の法則で説明出来る場合には設る必要がない。
- (5) 演繹的説明をなし得るものであること。
- (6) なるべく單純でなくてはならぬ。

## 第二章 知識の統整

### 1、正しき定義の條件を擧げよ。

#### 一、定義の意義

概念の内包を精密に規定して、他の類似概念と明らかに區別するものを定義といふ。

#### 二、正しき定義の條件

- (1) 定義は其の定義せんとするものの本質的屬性をあげることに。
- (2) 定義の中には定義される所の概念又は之と用意の概念を含んでゐてはならない。
- (3) 定義は肯定的に述べ得られる場合に否定的であつてはならぬ。
- (4) 定義は定義せんとするものの範囲を網羅し過不及なきこと。
- (5) 定義に用ひられる言語は簡單明瞭でなくてはならぬ。且つ曖昧多義又は比喩的な言語を使用してはならぬ。

(参考) 定義を下すことを得ざるもの

#### 一、最高概念

上位の概念がないから同位の種概念との差異を知ることが出来ぬ。例へば「物質」「一切」等の如し。

#### 二、個體概念

其の事物の有つてゐる一切の屬性を擧げ盡さなければ同種に屬する無數の個體間の區別を充分ならしむることが出来ぬ。併し新事は殆んど不可能である。例へば人名地名等の如し。



文 檢 受 験 の 正 し き 指 導 書

主 大 日 本 學 術 協 會 岡 田 怡 川 著

◇ 評 好 大

國民道德要領が教育大意と共に文檢受験者に新たなる重荷となりて課せられてから、國民道德要領の參考書は矢継ぎ早に刊行された。然しその大部分が國民道德要領の受験者にとりては無味乾燥はして、其の眞髓を理會し得ず國民道德要領の勉強をして、限りなく厄介視せしむるに至つた。本書は此の苦難を一掃し國民道德要領を修得せんとすることのため

◇ 迎 歡 大

文檢教育大意の參考書も決して少くはない。然しその範圍の狭いものや、叙述の乾燥無味なるものや、或は専門的教育學書の拔萃様のものみにて、教育大意の受験者をして、益々苦しましむるものである。本書は平易、懇切、明快にしてよく文檢の全般に亘り透徹なる指導をなせるものである。文檢受験者は本書の出現によりて受験の峻坂を減じ、容易に専門學科の準備に専念し得ることが出来る。文檢教育大意の受験者は本書を求めて應試に備へよ。

四六判 定價金貳圓參拾錢 郵送料 金拾貳錢

四六判 定價金貳圓參拾錢 郵送料 金拾貳錢

岡 田 怡 川 著 大 日 本 學 術 協 會 主 事

文 檢 中 心 東 洋 哲 學 史

三六判三七〇餘頁 定價金壹圓五拾錢 九ポイント組函入 郵送料 金八錢

文 檢 中 心 日 本 哲 學 史

三六判四六〇餘頁 定價金壹圓七拾錢 九ポイント組函入 郵送料 金拾錢

文 檢 中 心 現 代 思 想 批 判

三六判三七〇餘頁 定價金壹圓五拾錢 九ポイント組函入 郵送料 金八錢

文 檢 中 心 倫 理 學 概 論

三六判三七〇餘頁 定價金壹圓五拾錢 九ポイント組函入 郵送料 金八錢

文 檢 中 心 哲 學 概 論

三六判三七〇餘頁 定價金壹圓五拾錢 九ポイント組函入 郵送料 金八錢

◇ 文 檢 修 身 科 ・ 國 語 科 ・ 日 東 史 料

の 受 験 羅 針 盤 !

◇ 一 般 教 育 者 階 級 の 唯 一 の 典 據

で 有 る !

◇ 精 神 文 化 研 究 者 の 照 明 燈 !

著者曰く「倫理學に關して全般的組織的研究に没頭してゐたのは中等學校に於いて修身科擔任教師としての七ヶ年であつた。然しこれが執筆には絶えず最新研究をとり入れることにつとめて來た。昨今思想問題の宣傳せられたるに當り文書堂主三上氏の文化運動としての此の種の出版を快諾せられしにより、全十冊をして學術的意義と實際的價値を獲得せんが爲めに各部門の専門大家の援助を得、爲めに稿を更むること數回甚しきは十回にも至る次第である。唯に全力を傾けて所期の目的を達成せんとす」云々。(以下續刊す)

文序郎太亦本松 士博學文  
文序一孝科保 授教師高  
文序郎八上尾 士博學文  
著 一隆藤佐 涯柳

### 書の科學及書の教授

菊判高尙函入 定價金四圓五拾錢  
五百七十餘頁 小包送料金拾八錢

#### 大賞讃

◇書の實用・藝術の本質の究明！  
本書は廣く東西の文字・書法等即ち書道現象に於ける實用の眞理・藝術の本質・教育の根據等を闡明し、更にその三者の限界と相互關係及び實際問題等を系統的科學的に論述して從來全く因襲的迷夢中に成長し來れる書論、書法教授法等を根底より打破し、書の表出法、鑑賞法、實際教授法等を全々新たに建設したるもので寔に『書寫』に付いての一大論文である。小學校・中等學校に於ける教授者は勿論、書家、書の愛好家、藝術家等又は、學校、圖書館等に必備すべき寶典たらん。

### 草書便覽

四六判美裝幀 定價金壹圓五拾錢  
三百七十餘頁 郵送料 金八錢

文序也孝村中 士博學文  
字題 宣順 辻 塙 香  
書編郎太延藤加 山樂

#### 大歡迎

#### 特色

◇誰にも便利で文字の崩方が直ぐ解る！  
草書に書いた文字が讀めぬ不便や崩し方を知らざるために書翰や筆記に讀み難き難解の文字を認めて往々相手方を苦ましめることは自他共に大なる損失なり。一度本書を讀み草書を自由に會得し且つ迅速にして美觀を添ふべく何人にも頗る重要なるべし。  
(1) 主要基本文字に基き、偏旁冠者等を以て結構したれば實用文字三千餘字が自由に崩される。(2) 編纂を系統的に類例しあれば應用して優に四千五百字が崩される。(3) 二種の索引により音・訓・畫の何れからも自由に所要文字が引出せる。(4) 書體は優麗典雅なれば草書研究と同時に習字の手本となる。(5) 三六形なれば最も輕便なり。(6) 紙質上等・印刷鮮明・裝幀優美・製本堅牢・價格最も低廉。

文部省專門 粟屋謙閣下序  
前學務局長  
高橋千代子女史著  
小教 數 太 郎  
四六判美本 定價金壹圓五拾錢  
全一册 送料 拾錢

小説として面白くしかも算術の實際の實力が養はれる即ち多くの算術解方書に優る未聞の良書  
●數學の出来ない子を持つ親の福音  
此一書あれば顔に入の字を寄せ頭をかゝえて算術に悩まされなくつても一寸新聞雜誌を樂讀みする氣で面白く讀んでゐる中に、算術の難問題が解けて來る。そして今迄數學と云ふものは苦しい六ヶ敷しいときめ込んでゐた子でも、なほに樂なものは面白く出来てゐる。●中學・女學校入學準備實力養成書

東京女高師 佐伯常磨校閱  
教授文學士 龍 編  
大 久 保  
秀 方 逸  
私 たち の 心  
四六判美本 定價金五拾錢  
全一册 送料 金六錢

小教 綴 師 學 生 方 綴 手 方 綴 書 導 指  
「私たちの心に」思ふこと感じたことを自由に麗しく文に綴らうとするには、友の作つた優秀な名文を讀んで味ふに限りません。本書は皆さんの野菊のやうに麗しい、百合のやうに優しい、花のやうな情や玉のやうな心の、奥ゆかしい名文ばかりを集め、これに丁率な批評と文章の急所をさとりやうに印(點標)をつけ、又文藻を練るによい名士の文を添へて誰にでも作文の「こつ」をさとられ、上達が出来るやうにしてある自習書、又教師父兄の指導書である。學生諸士は直に此の良書を備へて綴方上達を計れ。

神田順子序文 佐藤伎俱能編  
高橋イネ校閱  
小學校教職專科正教員檢定試験  
教育大意及 問題解答集  
義經教授法  
菊判全一册 定價金七拾錢  
郵送料金六錢

神田高橋兩先生曰く  
「こうした良い問題解答集は他に類はない」  
著者四十年間裁縫女學校を経營し多數の教員を養成し、且つ教員檢定試験合格者を出したり、本書は著者が最近二十一年間に於いて指導せる檢定試験の生きた模範解答集にして、裁縫界の權威神田、高橋、兩先生の校閱推獎により出版せるものなり。小學校裁縫專科正教員は勿論、尋常科正教員、准教員たらんとする志望者には恐らく無二の参考書にして、又受験者指導者の好参考書たるべし。速に本書を座右にして受験の準備をせられよ。



文書堂版良書推薦

文部省前囑託 堀尾 實善著	醫學博士 羽太 銳治著	江馬春齡 共著 高木精作 共著	進藤 孝三著	米國哲學博士 高島 敏著	米國哲學博士 高島 敏著	米國哲學博士 高島 敏著	米國哲學博士 高島 敏著	米國哲學博士 高島 敏著	米國哲學博士 高島 敏著	文部省前囑託 堀尾 實善著
教育の施設と其の精神	家庭・學校 資料と實際 性教育の研究	小學校 體育衛生講話の實際	理想の體育設備と 並に用具設計	歐米各國 に於ける 青年團及處女團の訓練指導	歐米各國 に於ける 青年軍事訓練 並に國家 總動員	學徒 金錢の教育 及實際	學徒 英才教育 及實際	最新 手工趣味の厚紙建築	哲學序說	教育の施設と其の精神
送定價 一・八〇	送定價 三・〇〇	送定價 一・〇六	送定價 二・五〇	送定價 一・五〇	送定價 一・五〇	送定價 一・五〇	送定價 一・五〇	送定價 一・五〇	送定價 二・八〇	送定價 一・八〇

